

<集計分析結果>

(単純集計)

# 在宅介護実態調査の集計結果

～第9期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和5年3月

<坂井地区広域連合>



# 目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査方法・実施時期	1
4	集計・分析上の留意事項	1
II	単純集計	2
1	基本調査項目（A票）	2
(1)	回答者	2
(2)	世帯類型	2
(3)	施設等への入所・入居の検討状況	3
(4)	本人が抱えている傷病	4
(5)	介護保険サービスの利用の有無	5
(6)	介護保険サービスの1か月間の利用状況	5
(7)	介護保険サービス未利用の理由	11
(8)	保険外の支援・サービスの利用状況	12
(9)	在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	12
(10)	訪問診療の利用の有無	13
(11)	家族等による介護の頻度	13
2	主な介護者様用の調査項目（B票）	14
(1)	介護のための離職の有無	14
(2)	主な介護者の本人との関係	14
(3)	主な介護者の性別	15
(4)	主な介護者の年齢	15
(5)	主な介護者が行っている介護	16
(6)	今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	17
(7)	主な介護者の勤務形態	17
(8)	主な介護者の方の働き方の調整の状況	18
(9)	就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	19
(10)	主な介護者の就労継続の可否に係る意識	20
3	要介護認定データ	21

(1) 年齢	21
(2) 性別	21
(3) 二次判定結果（要介護度）	22
(4) サービス利用の組み合わせ	22
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	23
(6) 通所系サービスの合計利用回数	23
(7) 短期系サービスの合計利用回数	24
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	24
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	25
III 単純集計比較	26
1 基本調査項目（A票）	26
(1) 世帯類型	26
(2) 施設等への入所・入居の検討状況	26
(3) 本人が抱えている傷病	27
(4) 介護保険サービスの利用の有無	28
(5) 介護保険サービスの未利用の理由	29
(6) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	30
(7) 訪問診療の利用の有無	31
(8) 家族等による介護の頻度	31
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	32
(1) 介護のための離職の有無	32
(2) 主な介護者の本人との関係	33
(3) 主な介護者の性別	33
(4) 主な介護者の年齢	34
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	35
(6) 主な介護者の勤務形態	36
(7) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	37
(8) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	38
3 要介護認定データ	39
(1) 年齢	39
(2) 性別	40
(3) 二次判定結果（要介護度）	41
(4) サービス利用の組み合わせ	42
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	43
(6) 通所系サービスの合計利用回数	44
(7) 短期系サービスの合計利用回数	45

(8) 障害高齢者の日常生活自立度 .....	46
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度 .....	47

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、第9期介護保険事業計画の策定にあたって、要支援・要介護認定を受け在宅で生活している人及びその介護者から、要介護者の在宅生活の実態や家族介護者の就労実態などを把握し、基礎資料とすることを目的とします。

## 2 調査対象

在宅で生活する要支援・要介護認定を受けている坂井地区（あわら市及び坂井市）に居住する65歳以上の高齢者及びその主たる介護者のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける者から1,800人を無作為抽出により選定しました。

## 3 調査方法・実施時期

郵送によるアンケート調査 令和5年1月10日～1月27日

回収数 1,451件 / 回収率 80.6% / 有効回答数 1,449件

## 4 集計・分析上の留意事項

- ・集計は小数点第2位以下を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問について、その回答比率の合計は原則として100.0%となりません。
- ・グラフ等に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮又は簡略化して表記している場合があります。

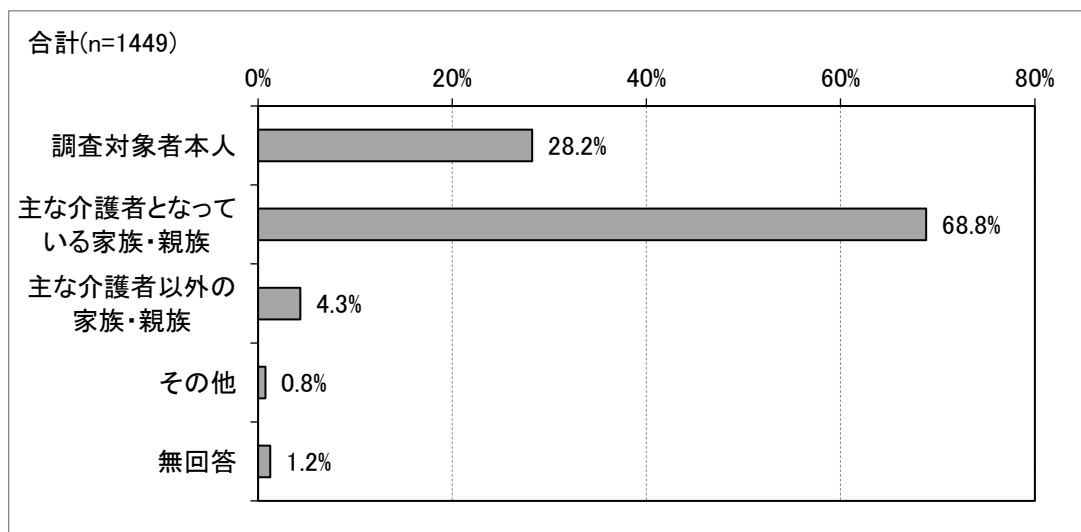
## Ⅱ 単純集計

### 1 基本調査項目（A票）

#### (1) 回答者

- 「主な介護者となっている家族・親族」が68.8%、「調査対象者本人」が28.2%、「主な介護者以外の家族・親族」が4.3%、「その他」が0.8%となっています。

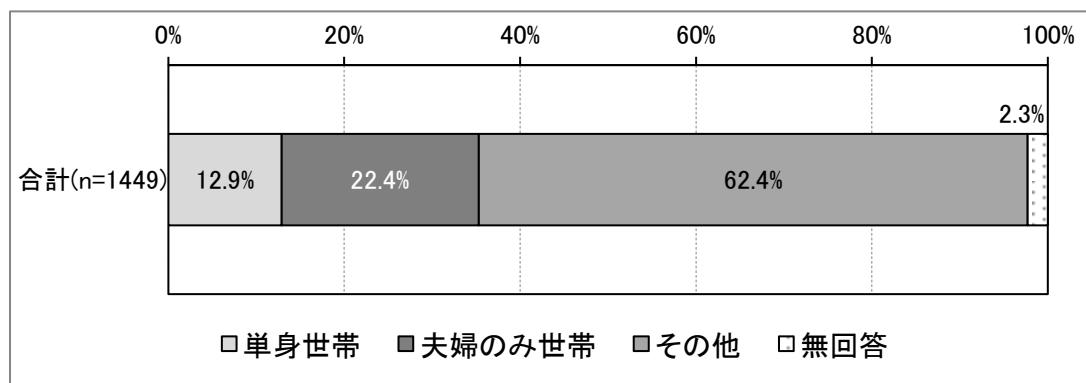
図表 1-1 回答者（複数回答）



#### (2) 世帯類型

- 「その他」が62.4%、「夫婦のみ世帯」が22.4%、「単身世帯」が12.9%となっています。

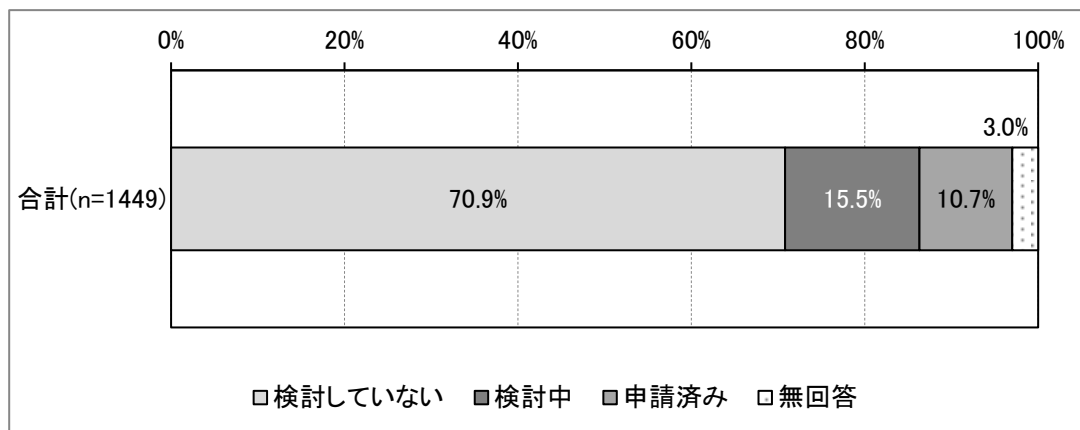
図表 1-2 世帯類型（単数回答）



(3) 施設等への入所・入居の検討状況

- 「検討していない」が70.9%、「検討中」が15.5%、「申請済み」が10.7%となっています。

図表 1-3 施設等検討の状況（単数回答）

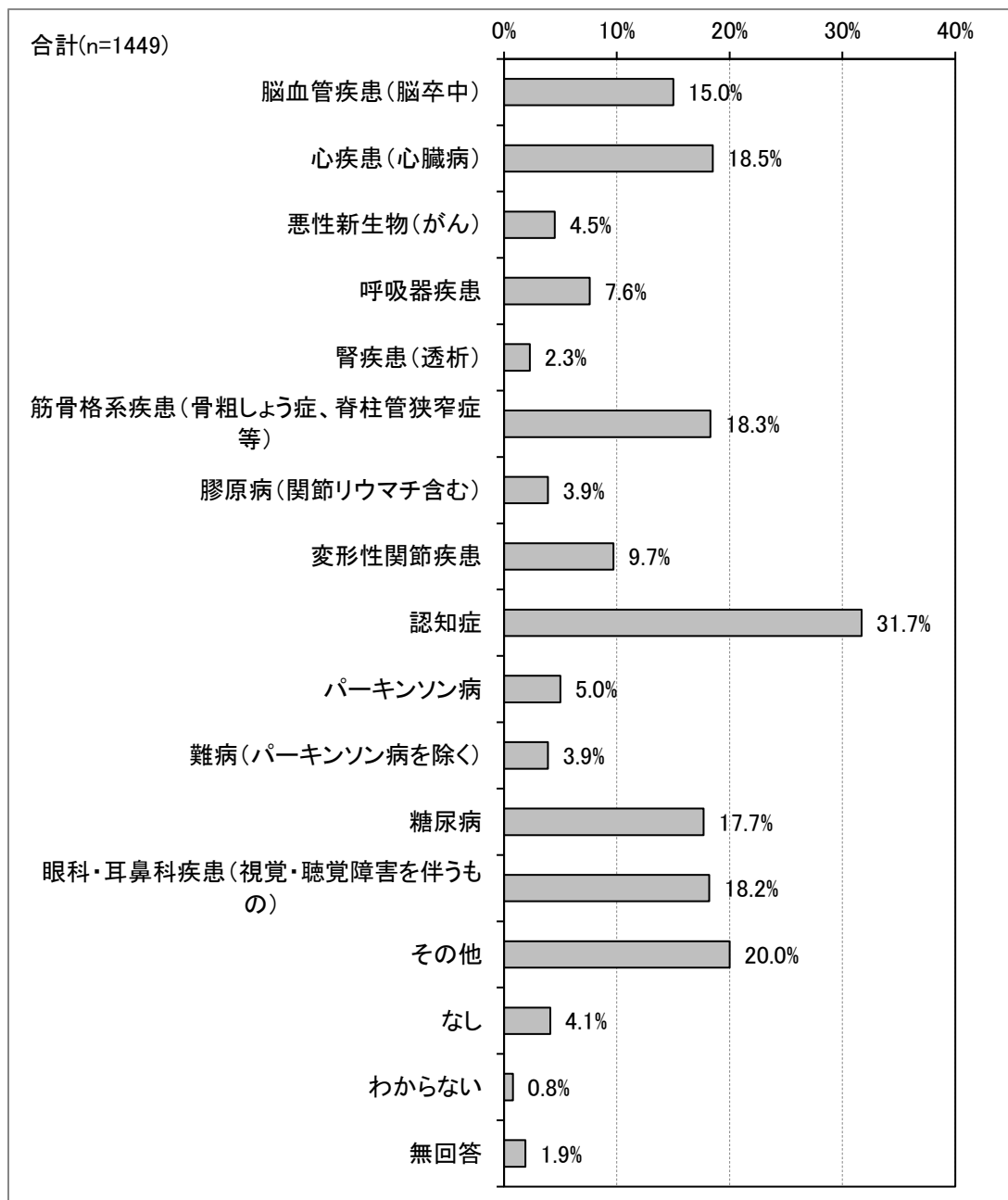




(4) 本人が抱えている傷病

- 「認知症」が31.7%で最も高く、次いで「その他」が20.0%、「心疾患（心臓病）」が18.5%と続いています。

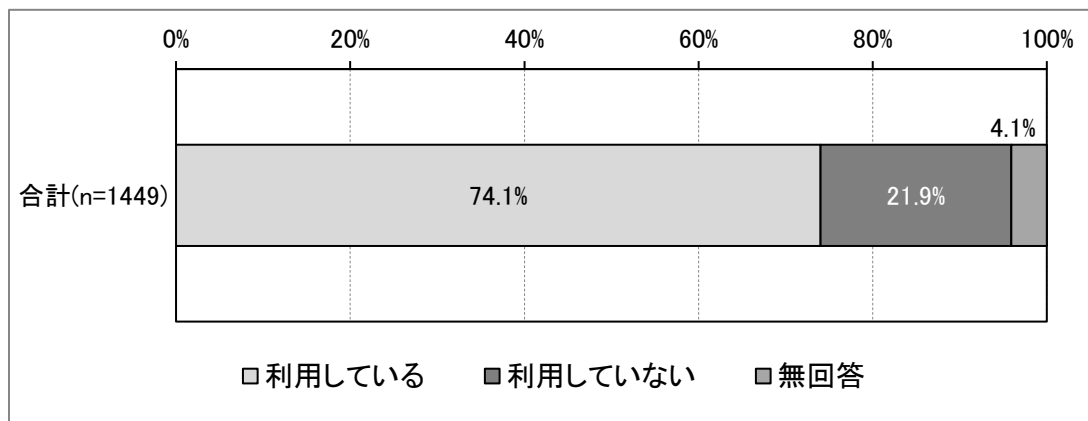
図表 1-4 本人が抱えている傷病（複数回答）



(5) 介護保険サービスの利用の有無

- 「利用している」が74.1%、「利用していない」が21.9%となっています。

図表 1-5 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）

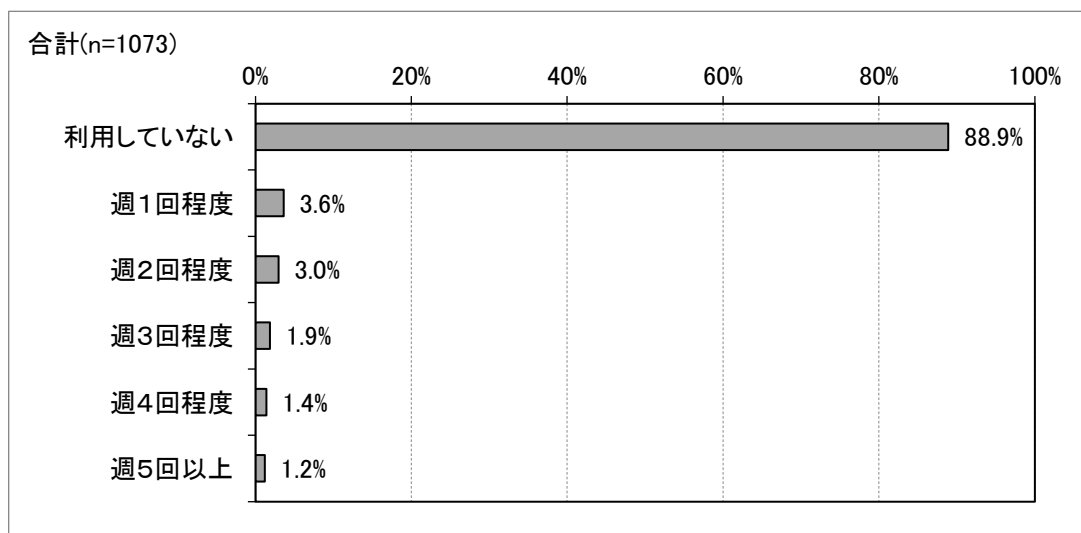


(6) 介護保険サービスの1か月間の利用状況

A. 訪問介護サービス

- 「利用していない」が88.9%で最も高く、次いで「週1回程度」が3.6%、「週2回程度」が3.0%と続いています。

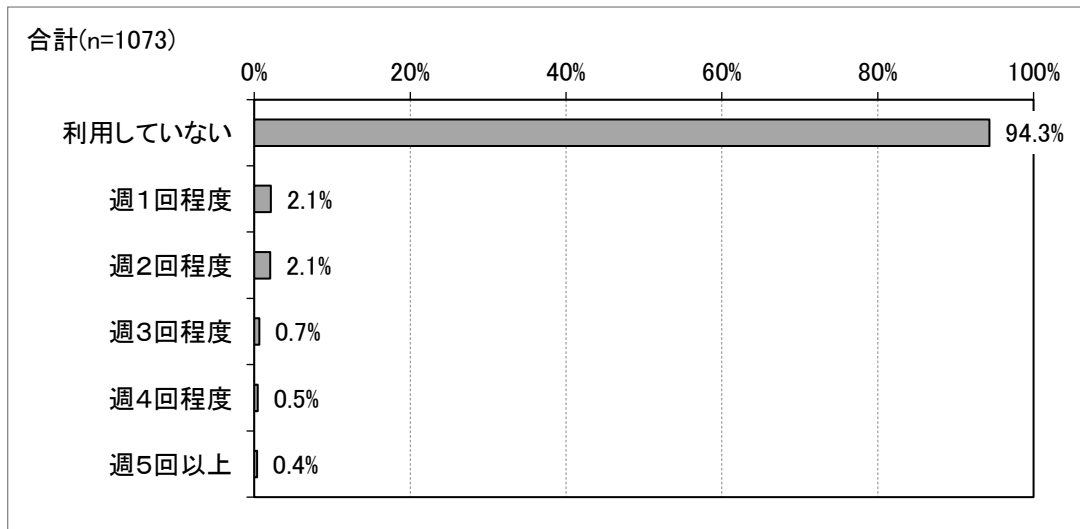
図表 1-6-A 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_訪問介護サービス（単数回答）



## B. 訪問入浴介護

- 「利用していない」が94.3%で最も高く、次いで「週1回程度」、「週2回程度」が2.1%、「週3回程度」が0.7%と続いています。

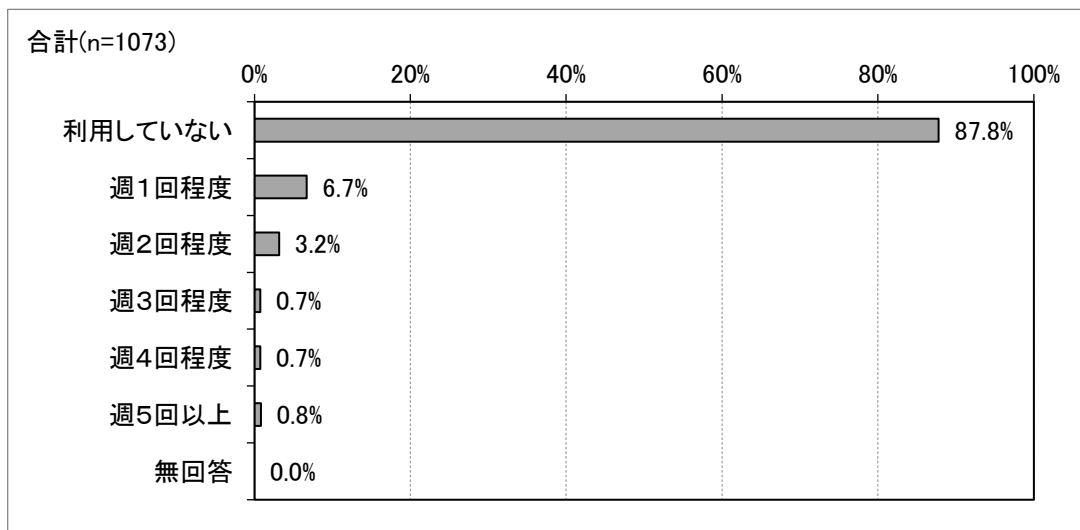
図表 1-6-B 介護保険サービスの1か月の利用状況\_訪問入浴介護（単数回答）



## C. 訪問看護

- 「利用していない」が87.8%で最も高く、次いで「週1回程度」が6.7%、「週2回程度」が3.2%と続いています。

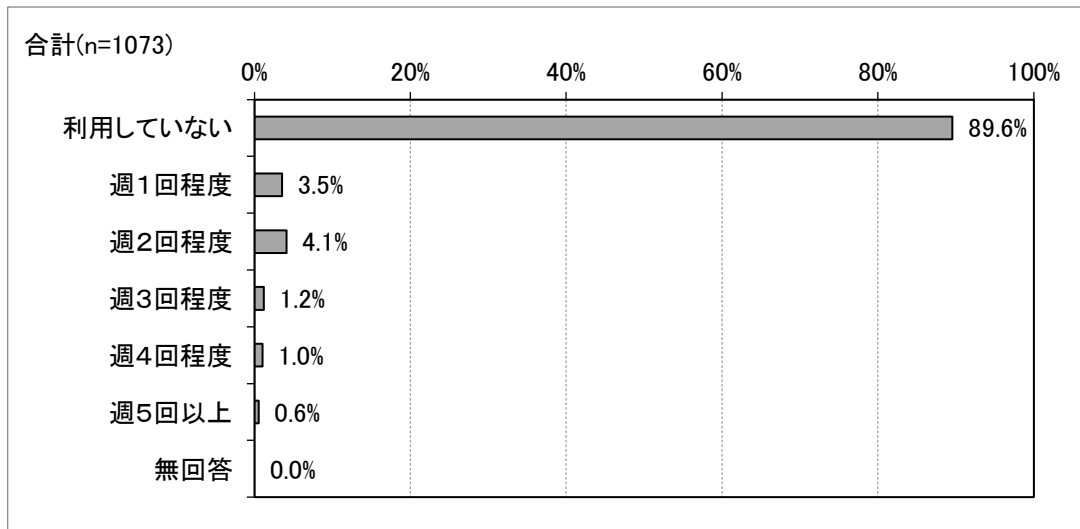
図表 1-6-C 介護保険サービスの1か月の利用状況\_訪問看護（単数回答）



#### D. 訪問リハビリテーション

- 「利用していない」が89.6%で最も高く、次いで「週2回程度」が4.1%、「週1回程度」が3.5%と続いています。

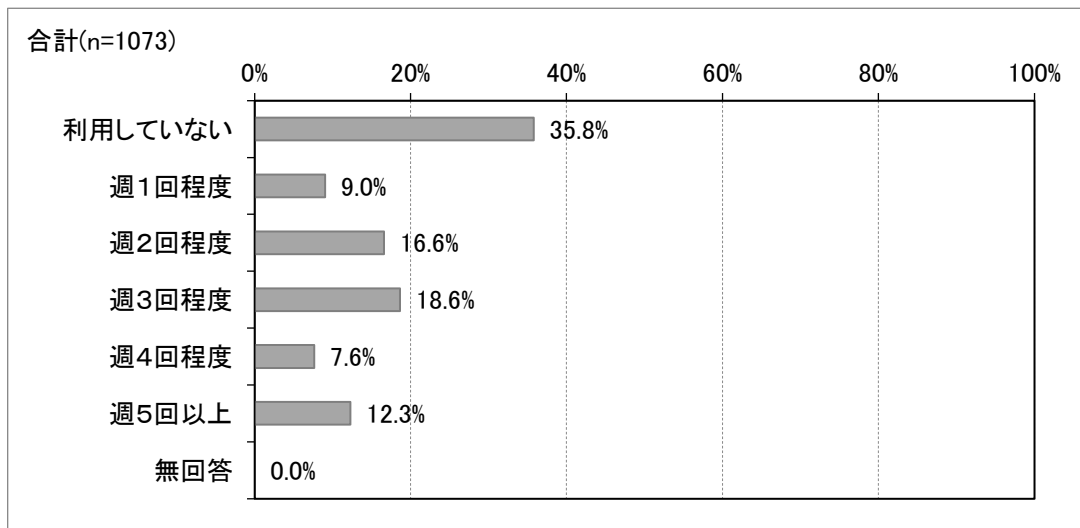
図表 1-6-D 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_訪問リハビリテーション（単数回答）



#### E. 通所介護（デイサービス）

- 「利用していない」が35.8%で最も高く、次いで「週3回程度」が18.6%、「週2回程度」が16.6%と続いています。

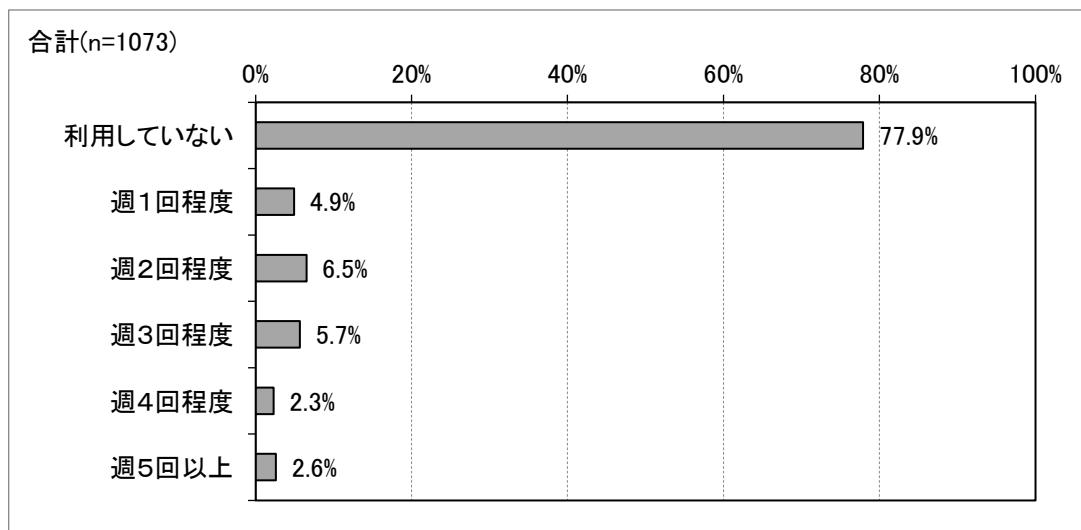
図表 1-6-E 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_通所介護（デイサービス）（単数回答）



#### F. 通所リハビリテーション（デイケア）

- 「利用していない」が77.9%で最も高く、次いで「週2回程度」が6.5%、「週3回程度」が5.7%と続いています。

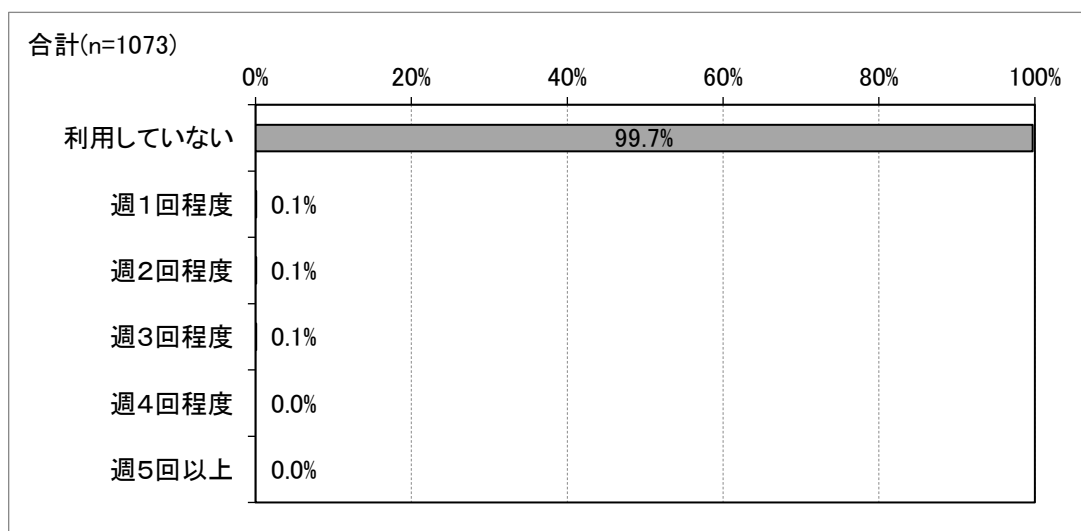
図表 1-6-F 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_通所リハビリテーション(デイケア)(単数回答)



#### G. 夜間対応型訪問介護

- 「利用していない」が99.7%で最も高く、次いで「週1回程度」、「週2回程度」、「週3回程度」が0.1%となっています。

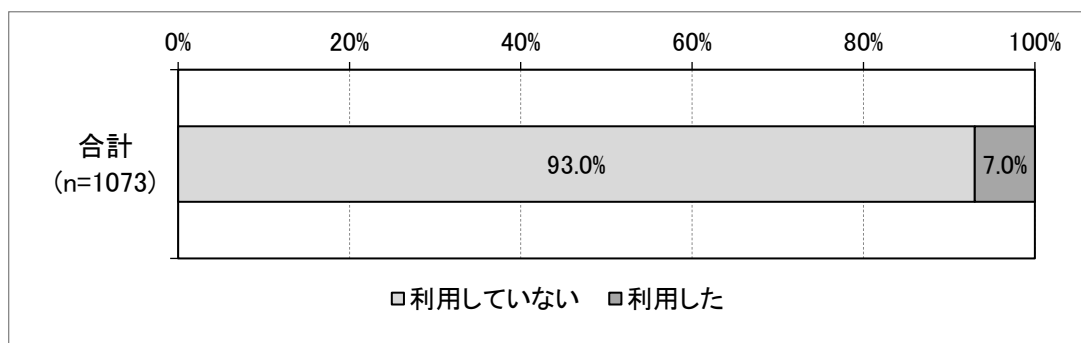
図表 1-6-G 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_夜間対応型訪問介護(単数回答)



#### H. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

○ 「利用していない」が93.0%、「利用した」が7.0%となっています。

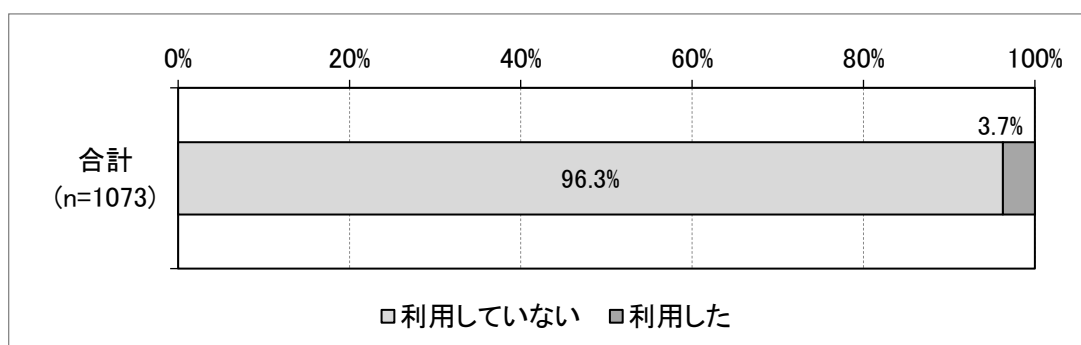
図表 1-6-H 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_定期巡回・随時対応型訪問介護看護(単数回答)



#### I. 小規模多機能型居宅介護

○ 「利用していない」が96.3%、「利用した」が3.7%となっています。

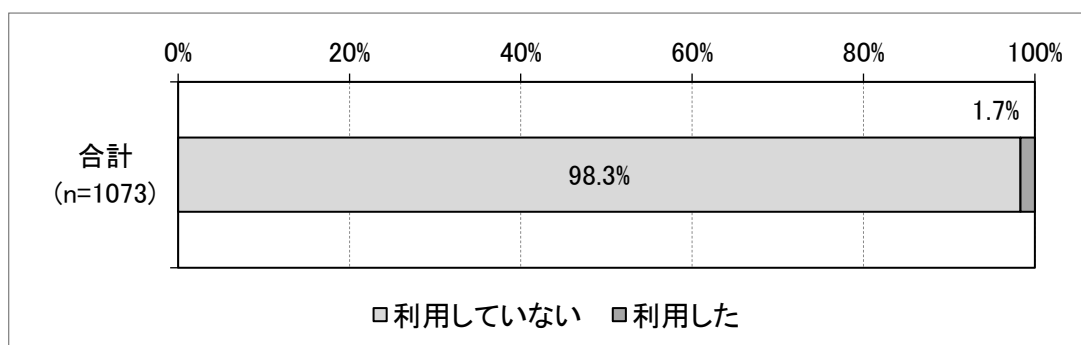
図表 1-6-I 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_小規模多機能型居宅介護(単数回答)



#### J. 介護小規模多機能型居宅介護

○ 「利用していない」が98.3%、「利用した」が1.7%となっています。

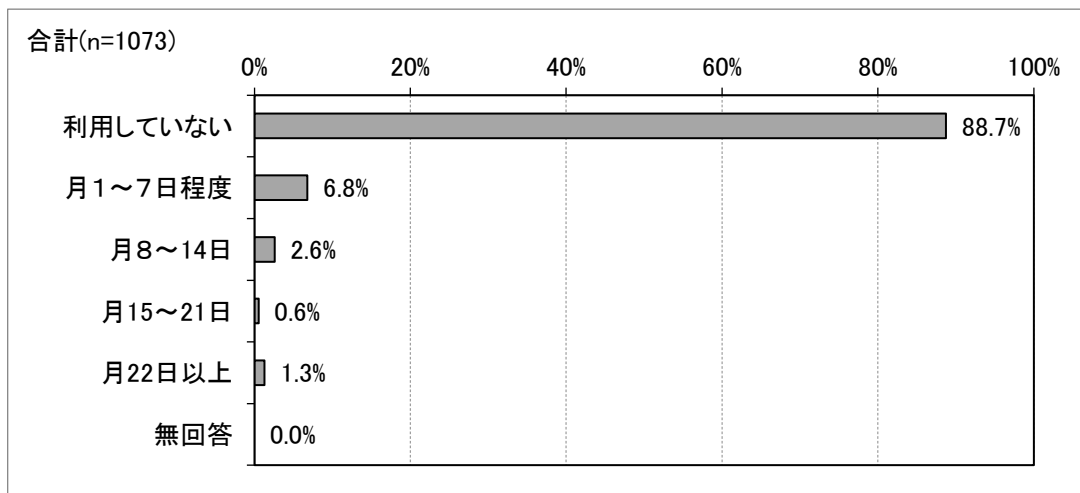
図表 1-6-J 介護保険サービスの1か月間の利用状況\_介護小規模多機能型居宅介護(単数回答)



### K. ショートステイ

- 「利用していない」が88.7%で最も高く、次いで「月1～7日程度」が6.8%、「月8～14日」が2.6%となっています。

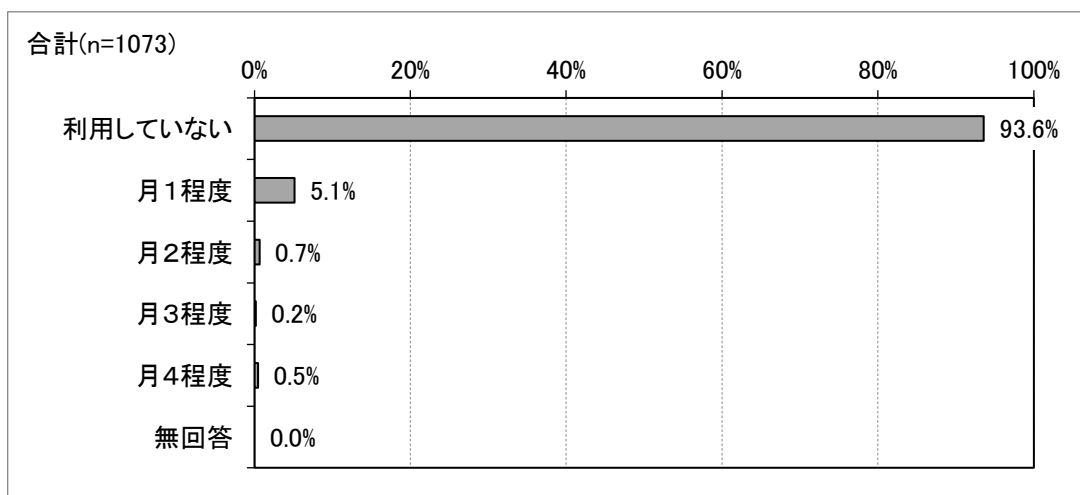
図表 1-6-K 介護保険サービスの1か月の利用状況\_ショートステイ (単数回答)



### L. 居宅療養管理指導

- 「利用していない」が93.6%で最も高く、次いで「月1程度」が5.1%、「月2程度」が0.7%となっています。

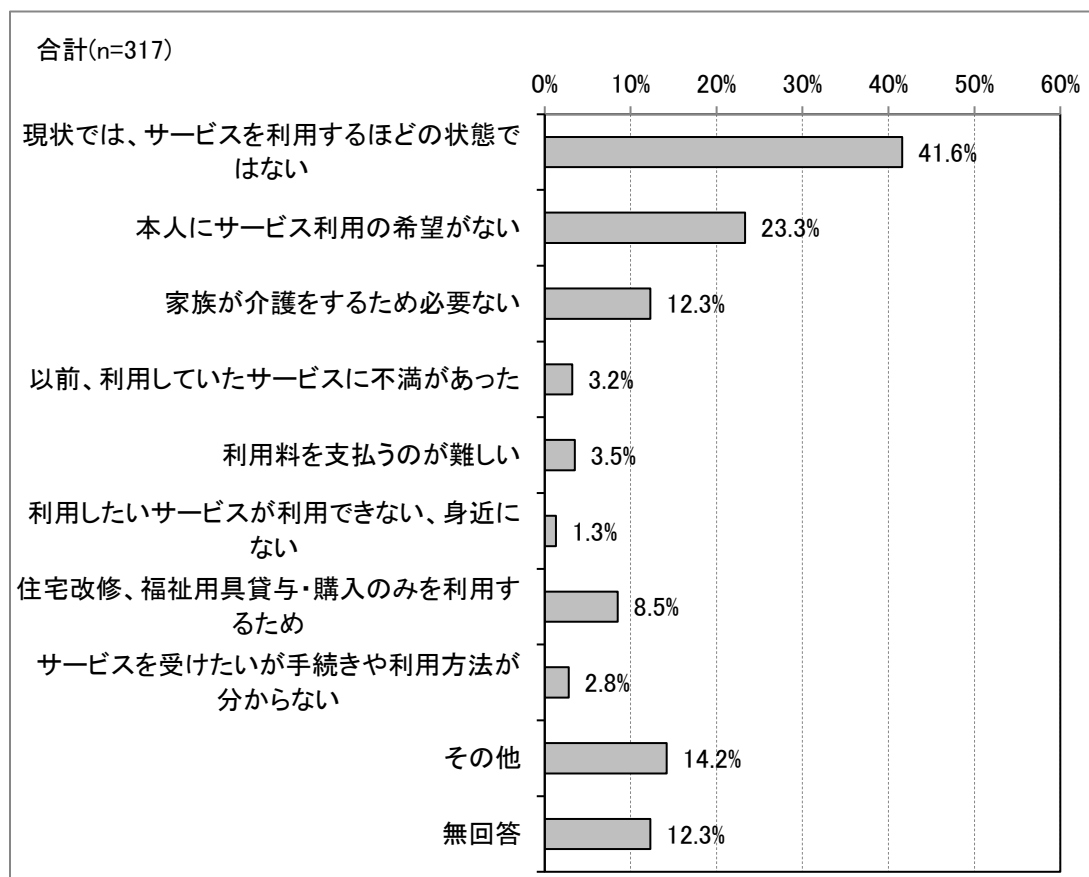
図表 1-6-L 介護保険サービスの1か月の利用状況\_居宅療養管理指導 (単数回答)



(7) 介護保険サービス未利用の理由

- 「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が41.6%で最も高く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が23.3%、「その他」が14.2%と続いています。

図表 1-7 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

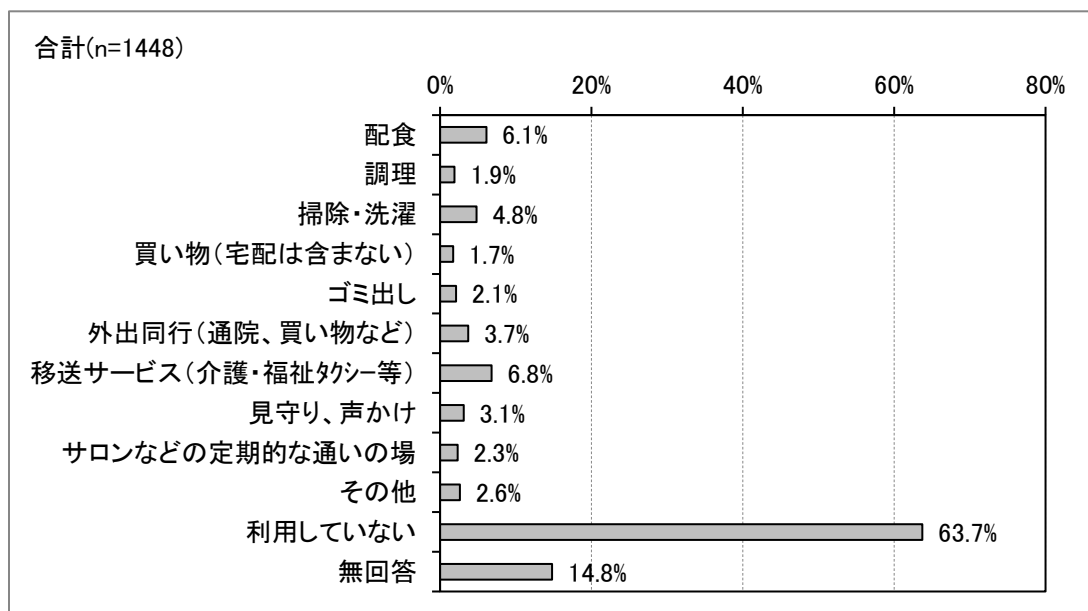




(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

- 「利用していない」が63.7%で最も高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が6.8%、「配食」が6.1%と続いています。

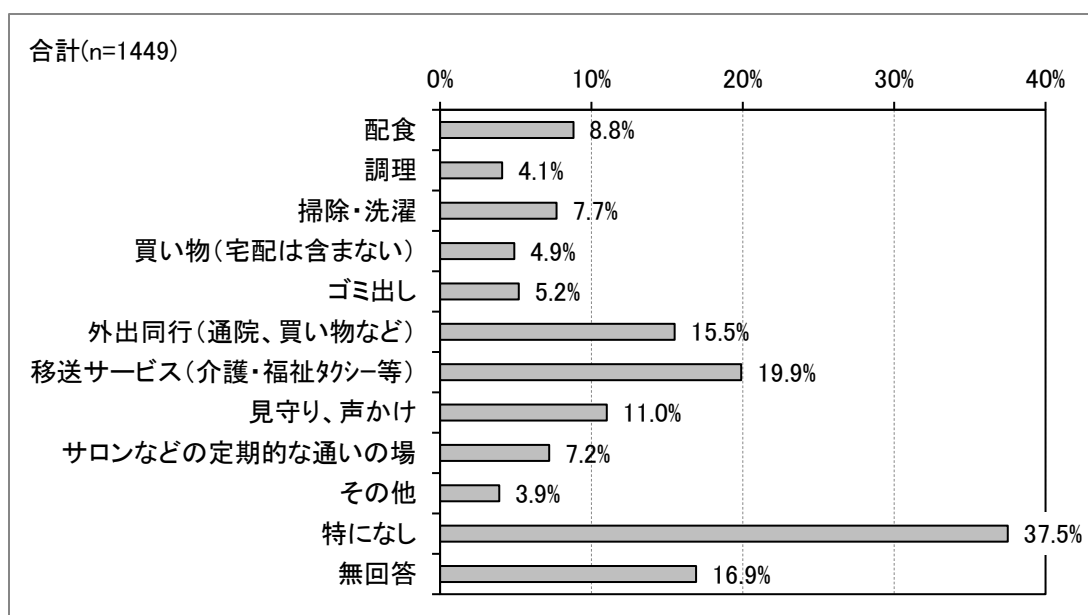
図表 1-8 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

- 「特になし」が37.5%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が19.9%、「外出同行（通院、買い物など）」が15.5%となっています。

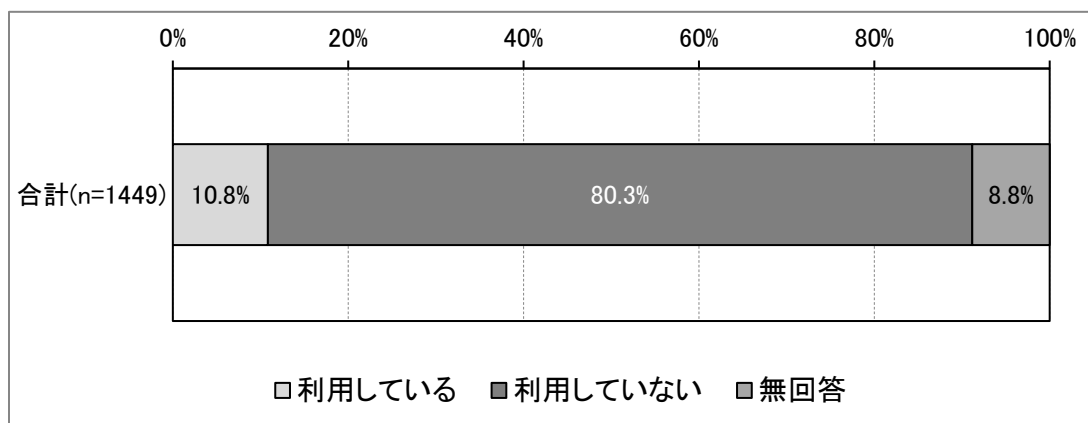
図表 1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(10) 訪問診療の利用の有無

- 「利用していない」が80.3%、「利用している」が10.8%となっています。

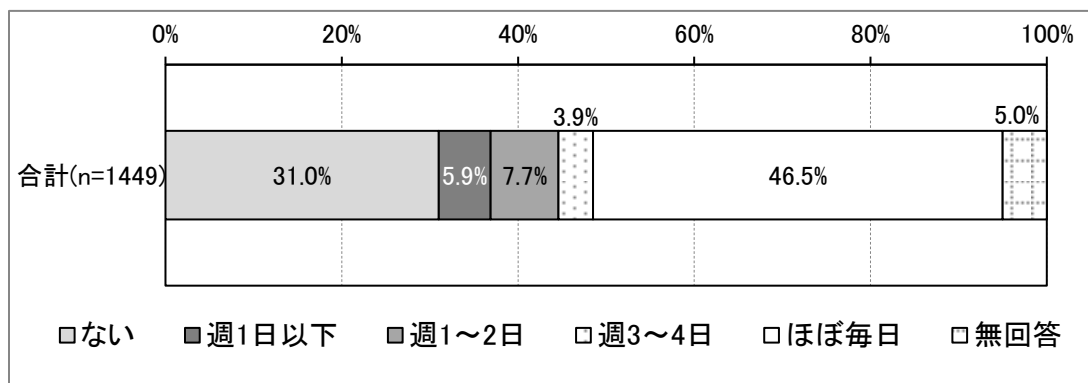
図表 1-10 訪問診療の利用の有無（単数回答）



(11) 家族等による介護の頻度

- 「ほぼ毎日」が46.5%で最も高く、次いで「ない」が31.0%、「週1～2日」が7.7%と続いています。

図表 1-11 家族等による介護の頻度（単数回答）

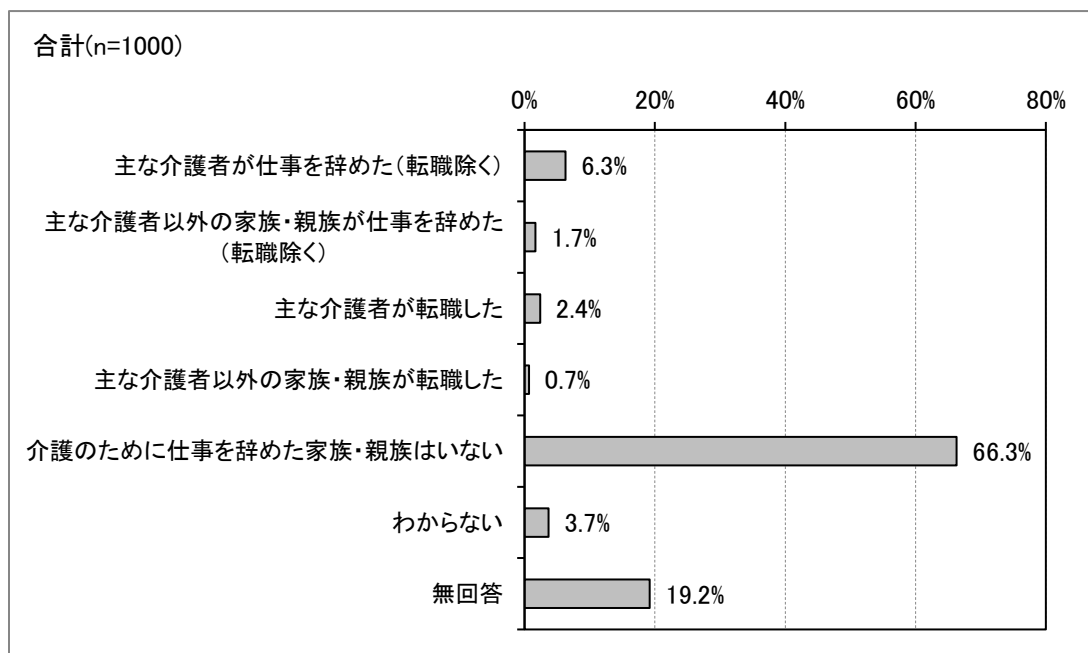


## 2 主な介護者様用の調査項目（B票）

### (1) 介護のための離職の有無

- 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が66.3%で最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が6.3%、「わからない」が3.7%と続いています。

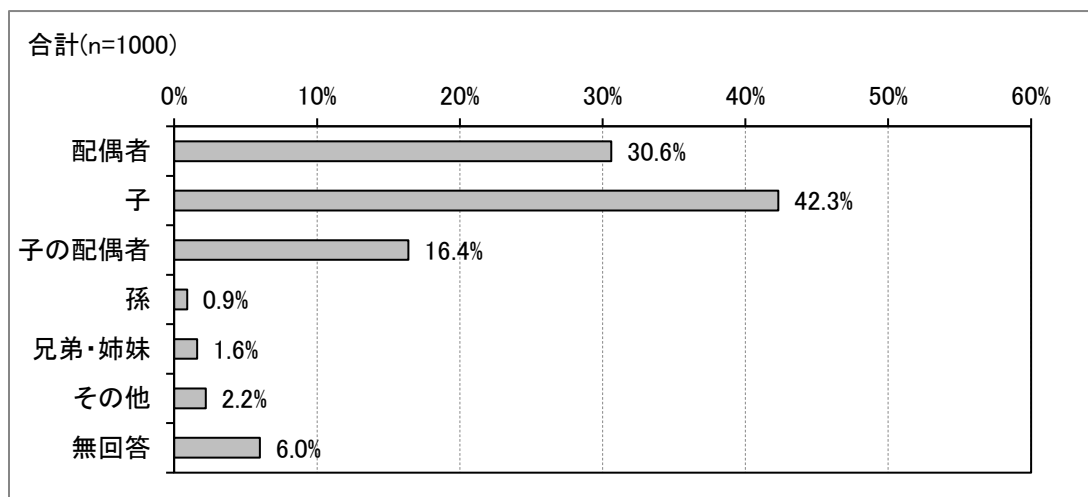
図表 2-1 介護のための離職の有無（複数回答）



### (2) 主な介護者の本人との関係

- 「子」が42.3%で最も高く、次いで「配偶者」が30.6%、「子の配偶者」が16.4%が続いています。

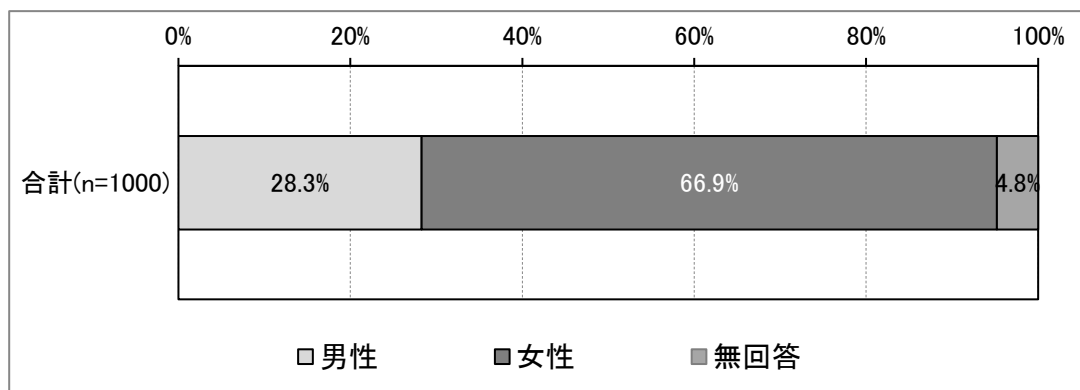
図表 2-2 主な介護者の本人との関係（単数回答）



(3) 主な介護者の性別

- 「女性」が66.9%、「男性」が28.3%となっています。

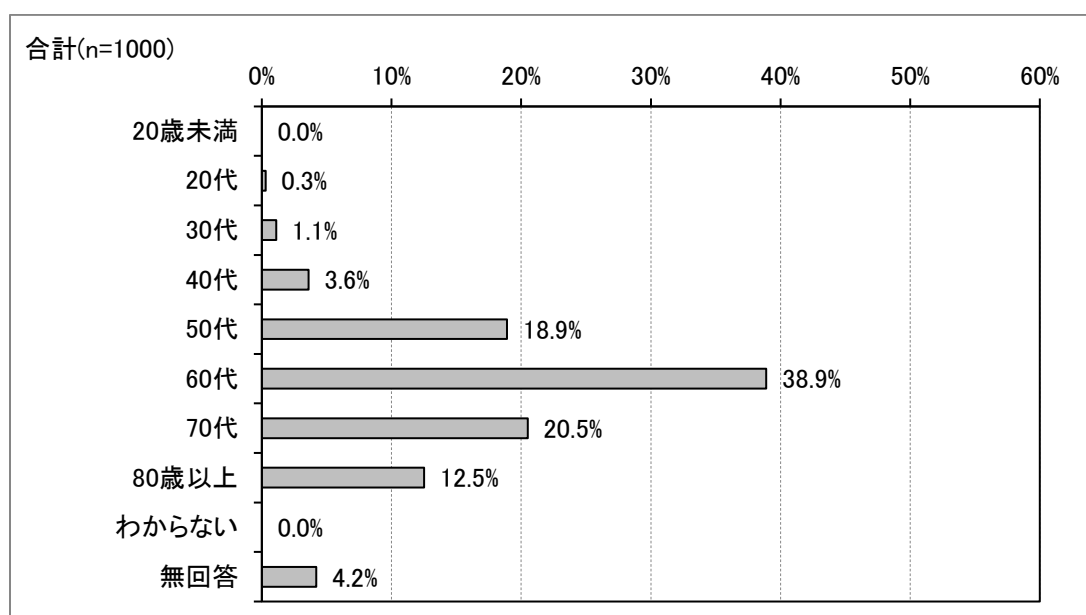
図表 2-3 主な介護者の性別（単数回答）



(4) 主な介護者の年齢

- 「60代」が38.9%で最も高く、次いで「70代」が20.5%、「50代」が18.9%が続いています。

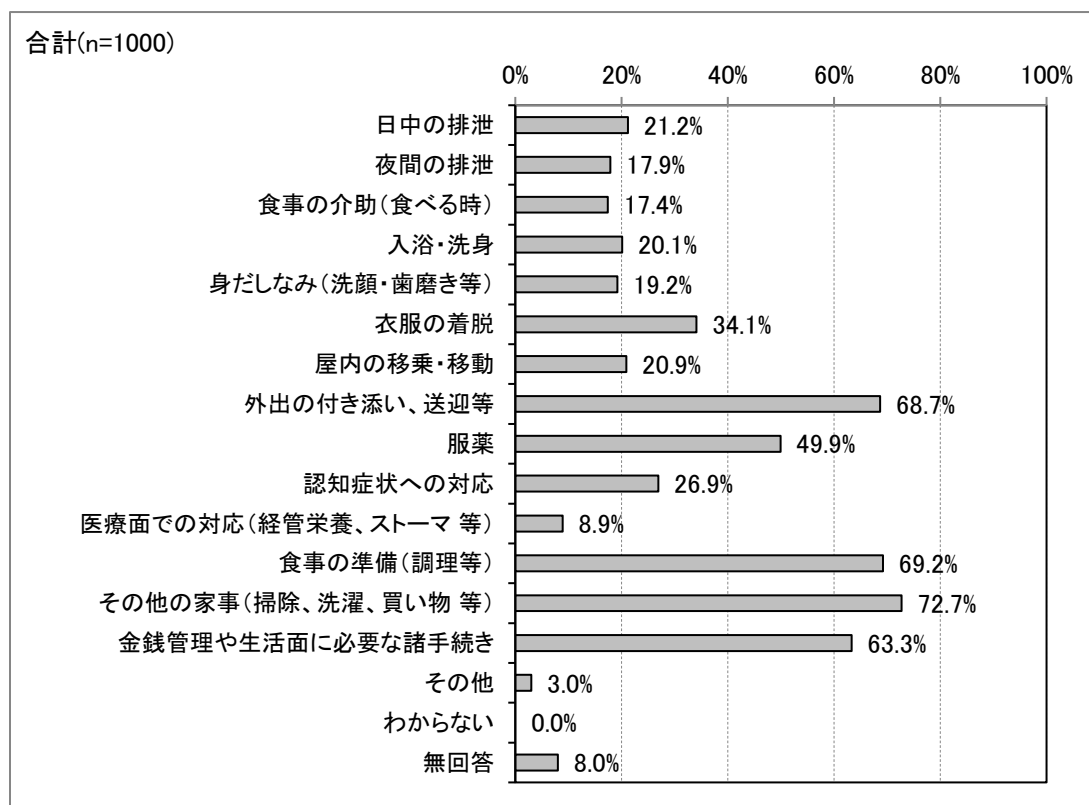
図表 2-4 主な介護者の年齢（単数回答）



(5) 主な介護者が行っている介護

- 「その他家事（掃除、洗濯、買い物等）」が72.7%で最も高く、次いで「食事の準備（調理等）」が69.2%、「外出の付き添い、送迎等」が68.7%と続いています。

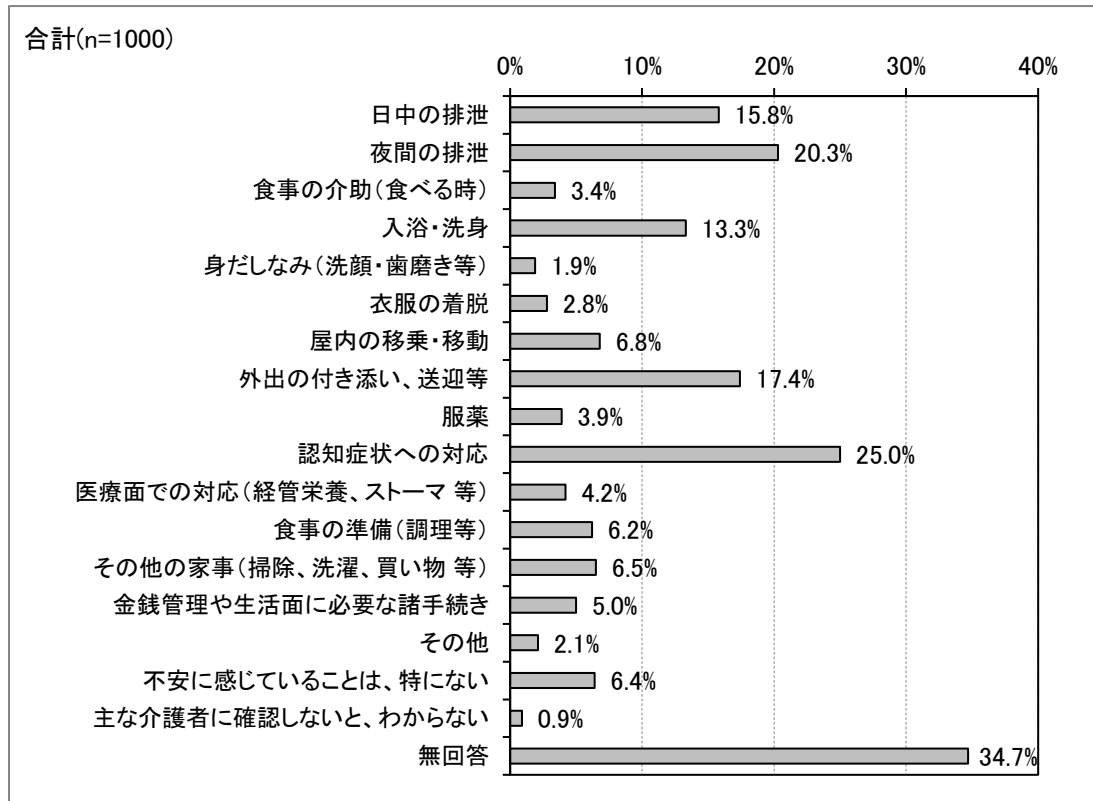
図表 2-5 主な介護者が行っている介護（複数回答）



(6) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

- 「認知症状への対応」が25.0%と最も高く、次いで「夜間の排泄」が20.3%、「外出の付き添い、送迎等」が17.4%と続いています。

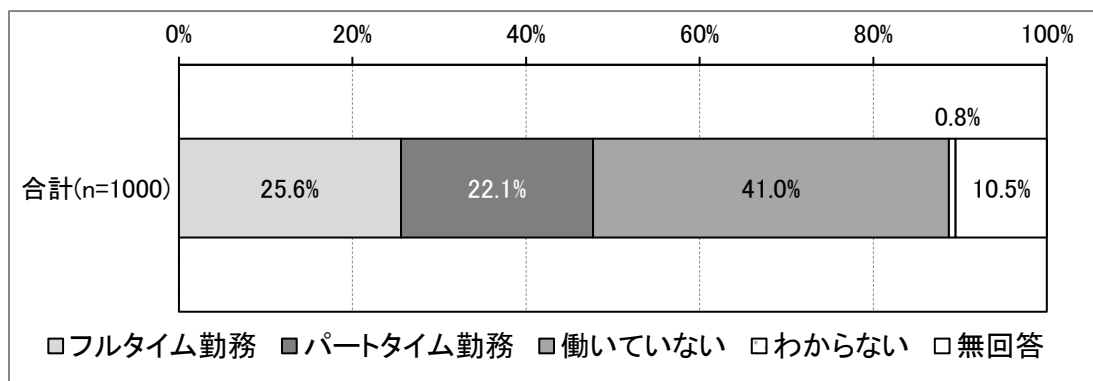
図表 2-6 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



(7) 主な介護者の勤務形態

- 「働いていない」が41.0%、「フルタイム勤務」が25.6%、「パートタイム勤務」が22.1%となっています。

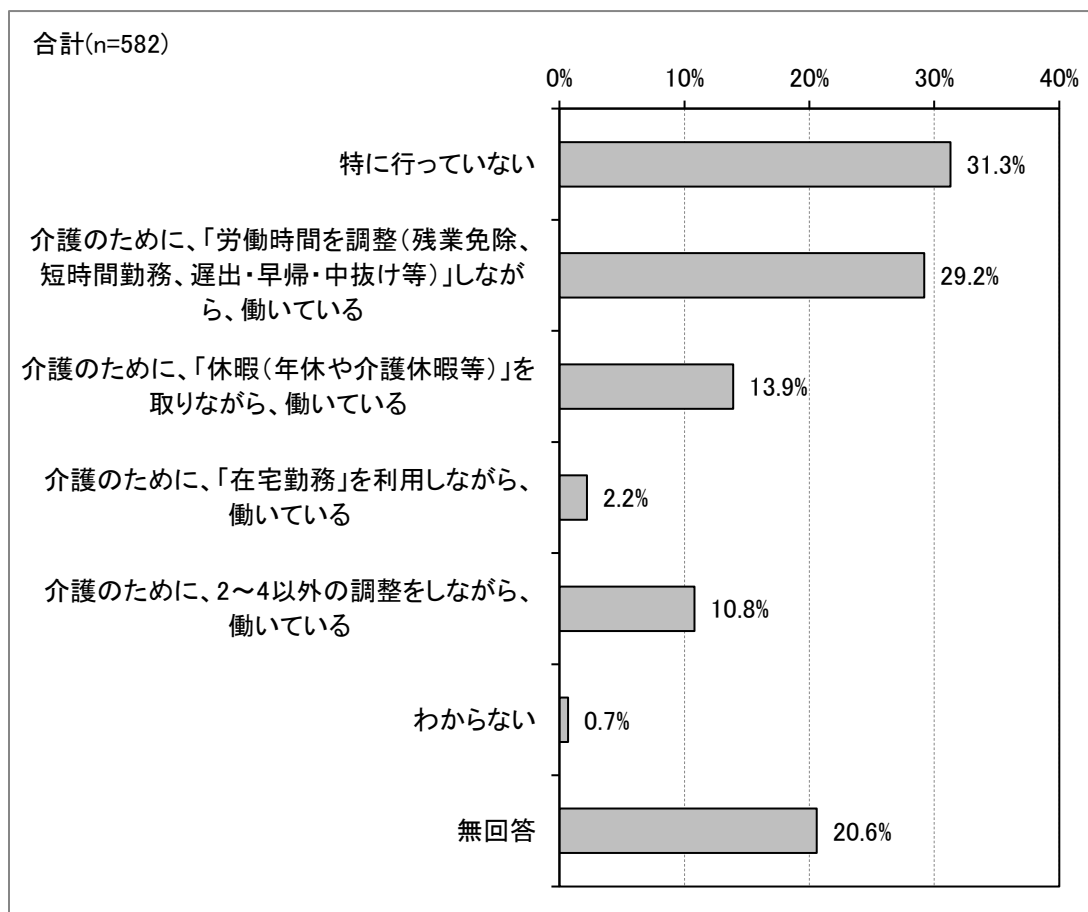
図表 2-7 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(8) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

- 「特に行っていない」が31.3%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が29.2%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が13.9%と続いています。

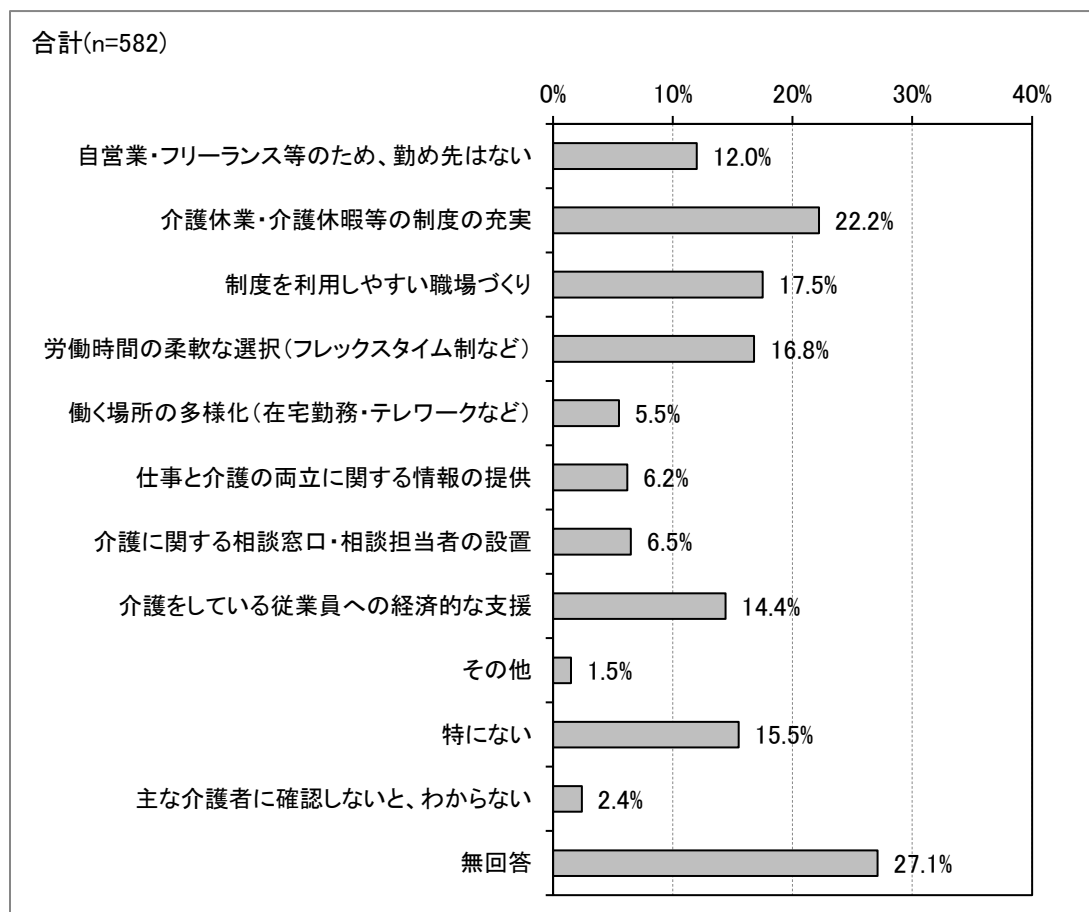
図表 2-8 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



(9) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

- 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が22.2%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が17.5%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が16.8%と続いています。

図表 2-9 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）

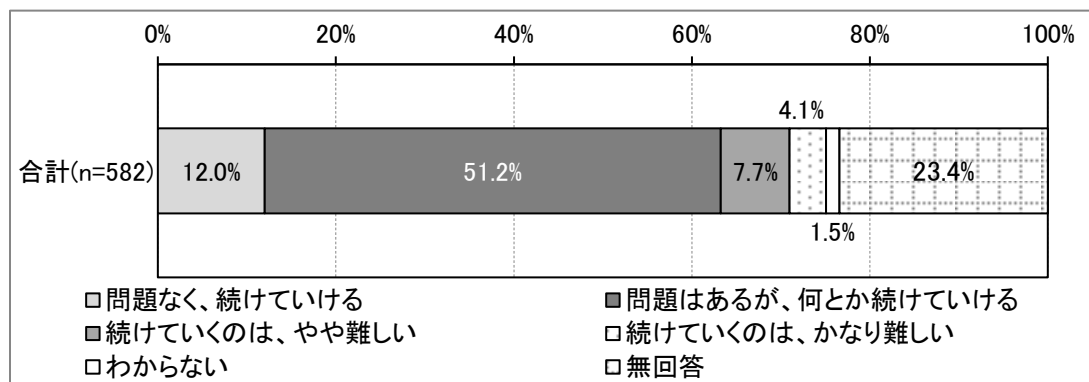




(10) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

- 「問題はあるが、何とか続けていける」が51.2%と最も高く、次いで「問題なく、続けていける」が12.0%、「続けていくのは、やや難しい」が7.7%と続いています。

図表 2-10 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

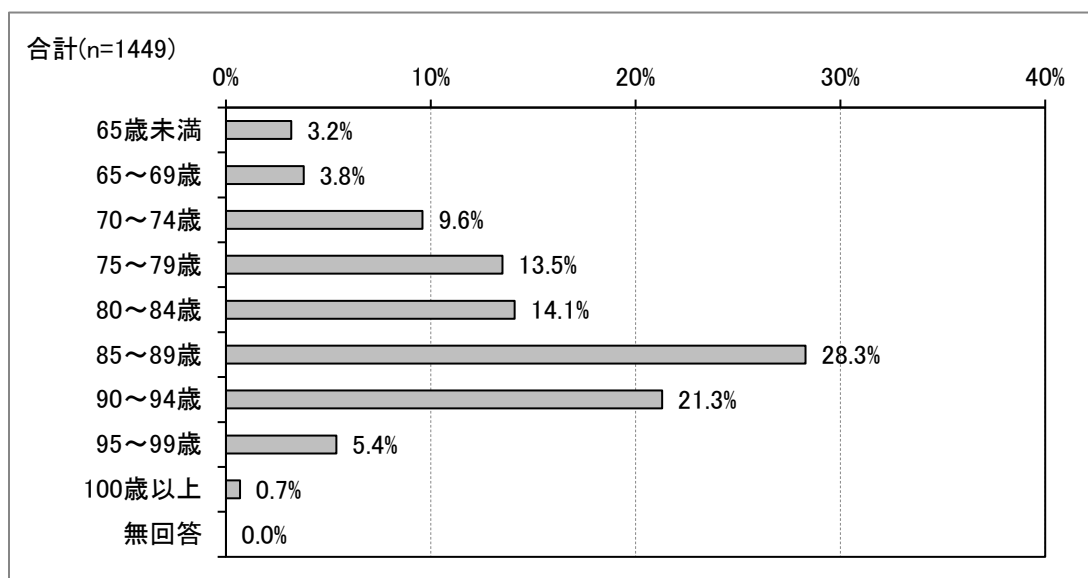


### 3 要介護認定データ

#### (1) 年齢

- 「85～89歳」が28.3%と最も高く、次いで「90～94歳」が21.3%、「80～84歳」が14.1%と続いています。

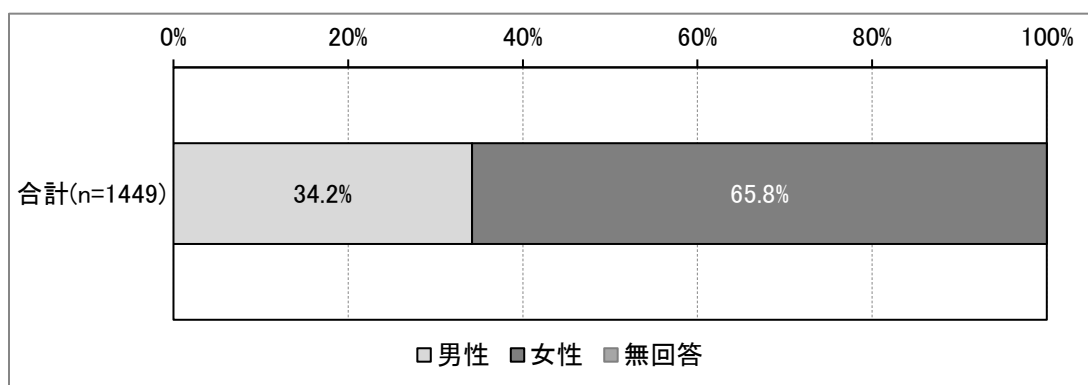
図表 3-1 年齢



#### (2) 性別

- 「女性」が65.8%、「男性」が34.2%となっています。

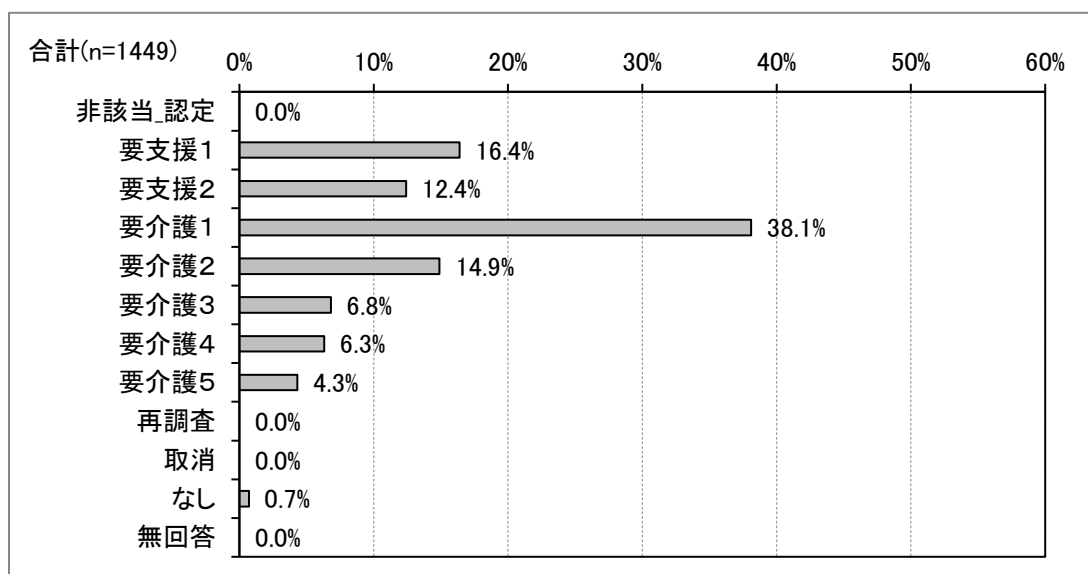
図表 3-2 性別



### (3) 二次判定結果（要介護度）

- 「要介護1」が38.1%と最も高く、次いで「要支援1」が16.4%、「要介護2」が14.9%と続いています。

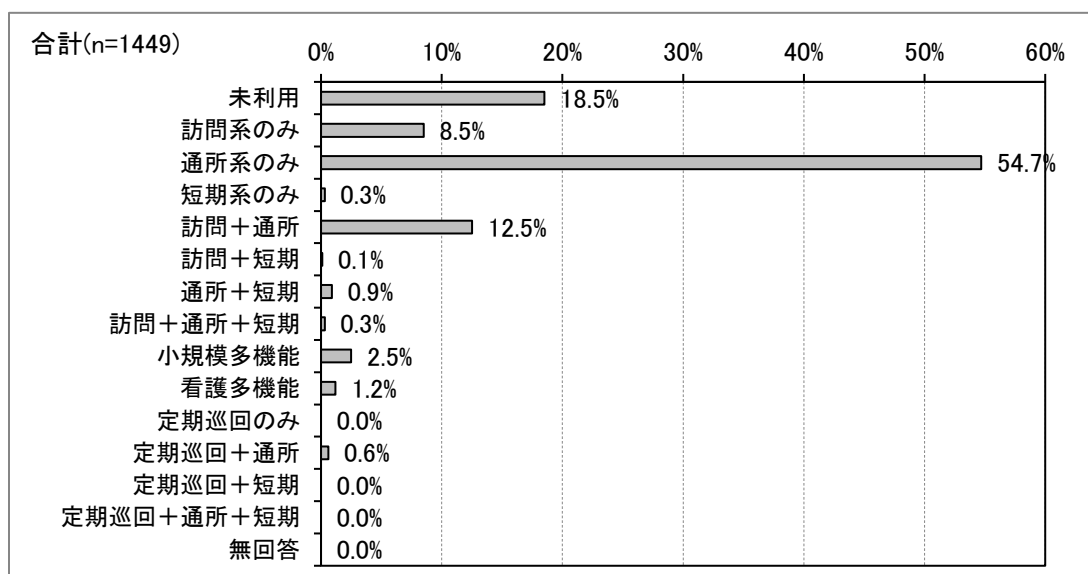
図表 3-3 二次判定結果



### (4) サービス利用の組み合わせ

- 「通所系のみ」が54.7%と最も高く、次いで「未利用」が18.5%、「訪問+通所」が12.5%と続いています。

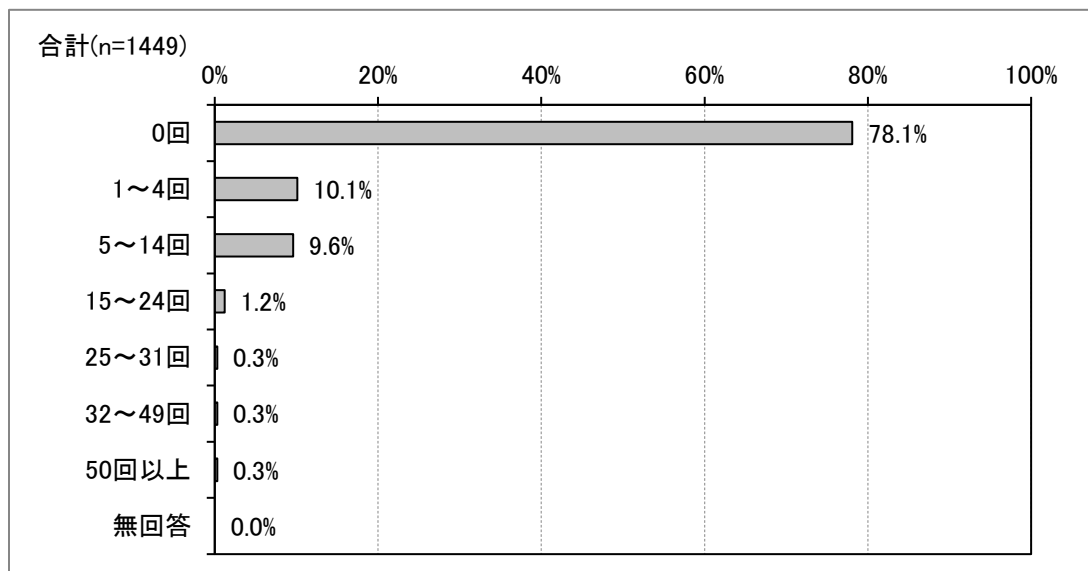
図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



(5) 訪問系サービスの合計利用回数

- 「0回」が78.1%と最も高く、次いで「1～4回」が10.1%、「5～14回」が9.6%と続いています。

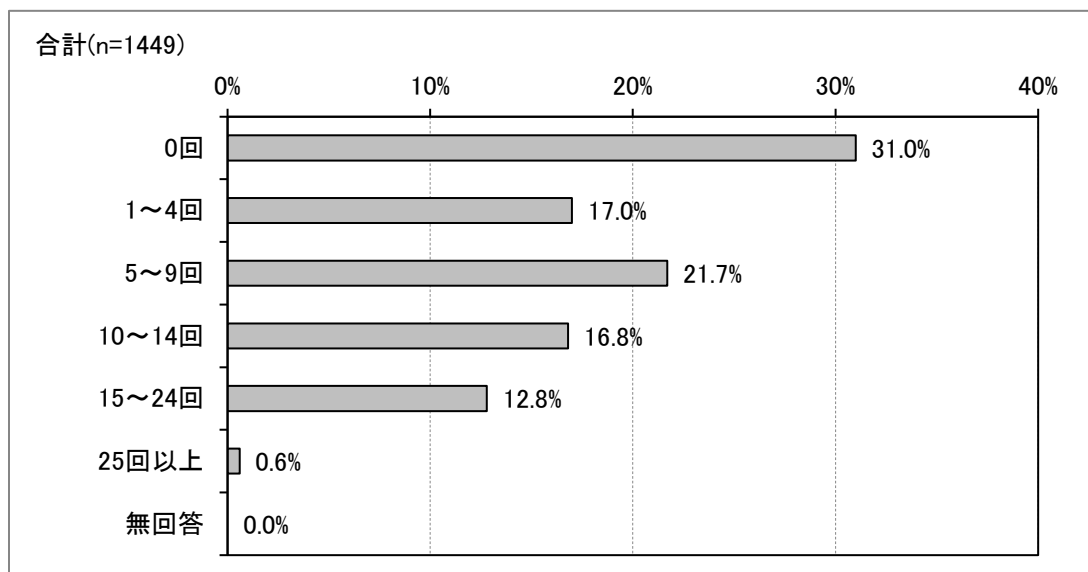
図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



(6) 通所系サービスの合計利用回数

- 「0回」が31.0%と最も高く、次いで「5～9回」が21.7%、「1～4回」が17.0%と続いています。

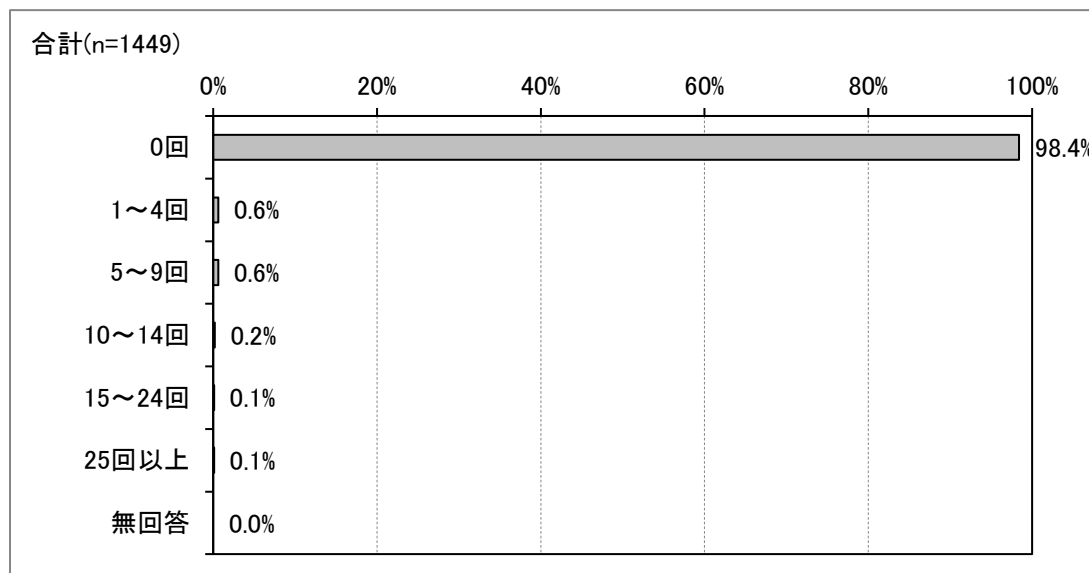
図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

- 「0回」が98.4%と突出しています。

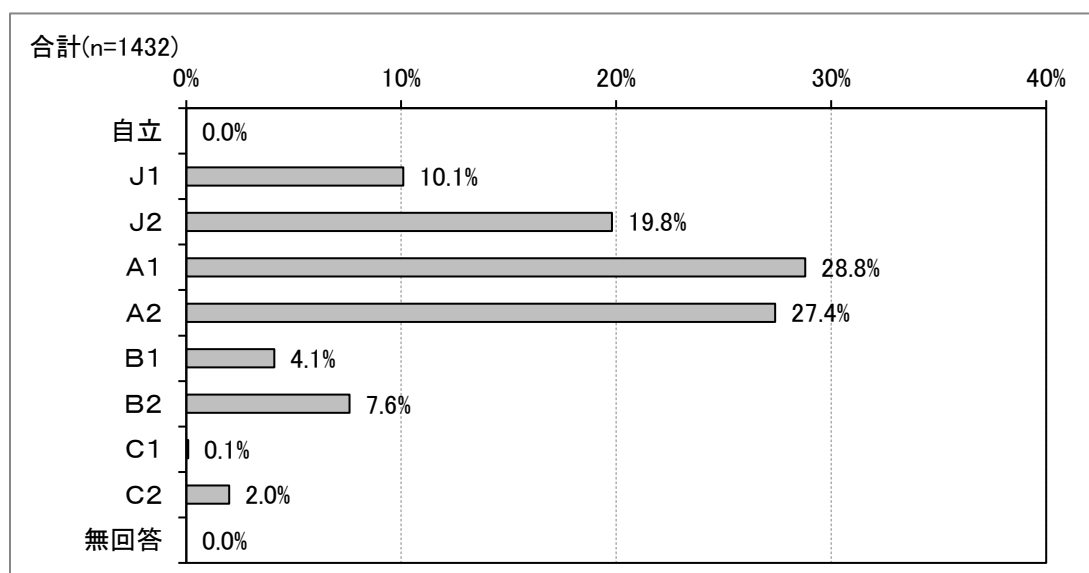
図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

- 「A1」が28.8%と最も高く、次いで「A2」が27.4%、「J2」が19.8%と続いています。

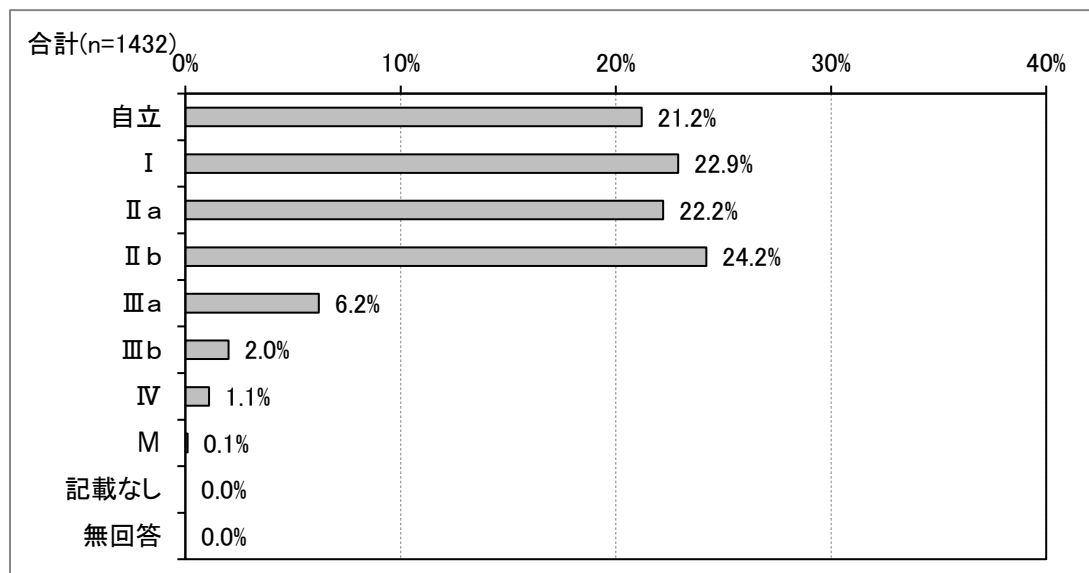
図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

- 「Ⅱb」が24.2%と最も高く、次いで「Ⅰ」が22.9%、「Ⅱa」が22.2%と続いています。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



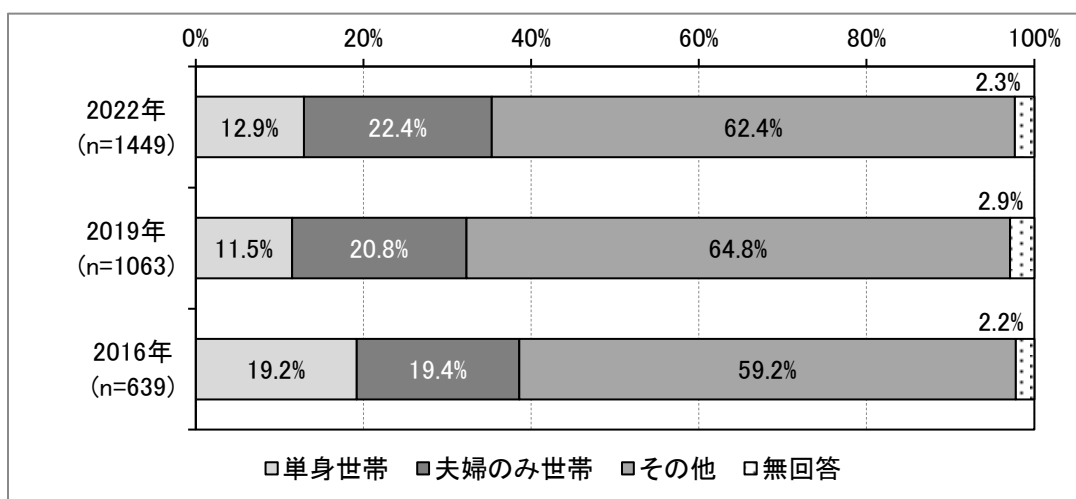
### Ⅲ 単純集計比較

#### 1 基本調査項目（A票）

##### (1) 世帯類型

- 2022年度と2019年度を比較して大きな差はみられません。

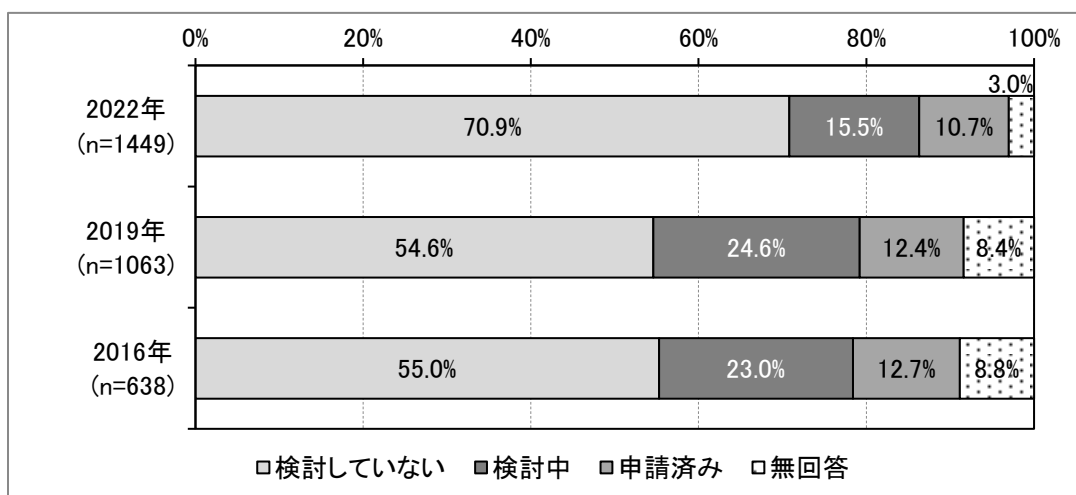
図表 4-1 世帯類型（単数回答）



##### (2) 施設等への入所・入居の検討状況

- 「検討していない」の割合が2022年度は70.9%で、2019年度（54.6%）および2016年度（55.0%）と比較して約16ポイント増加しています。

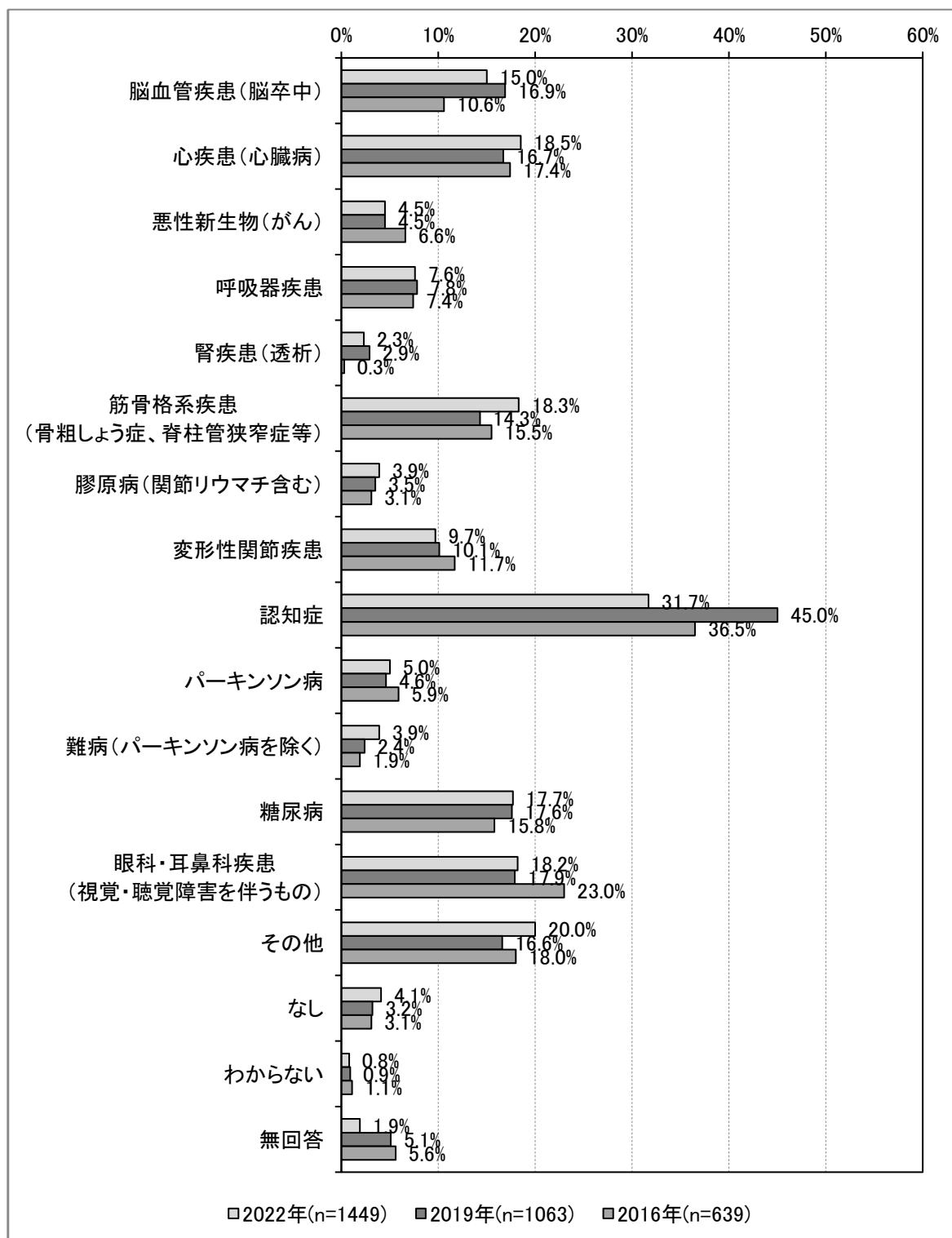
図表 4-2 施設等検討の状況（単数回答）



### (3) 本人が抱えている傷病

- 「認知症」の割合が2022年度は31.7%で、2019年度（45.0%）と比較して13.3ポイント減少しています。

図表 4-3 本人が抱えている傷病（複数回答）

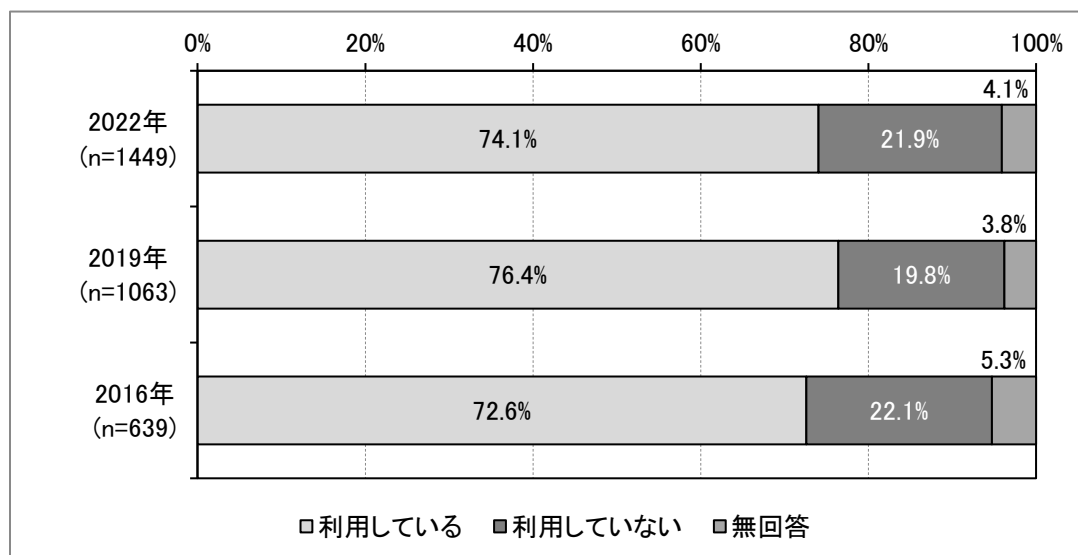




#### (4) 介護保険サービスの利用の有無

○ 年度別に比較して大きな差はみられません。

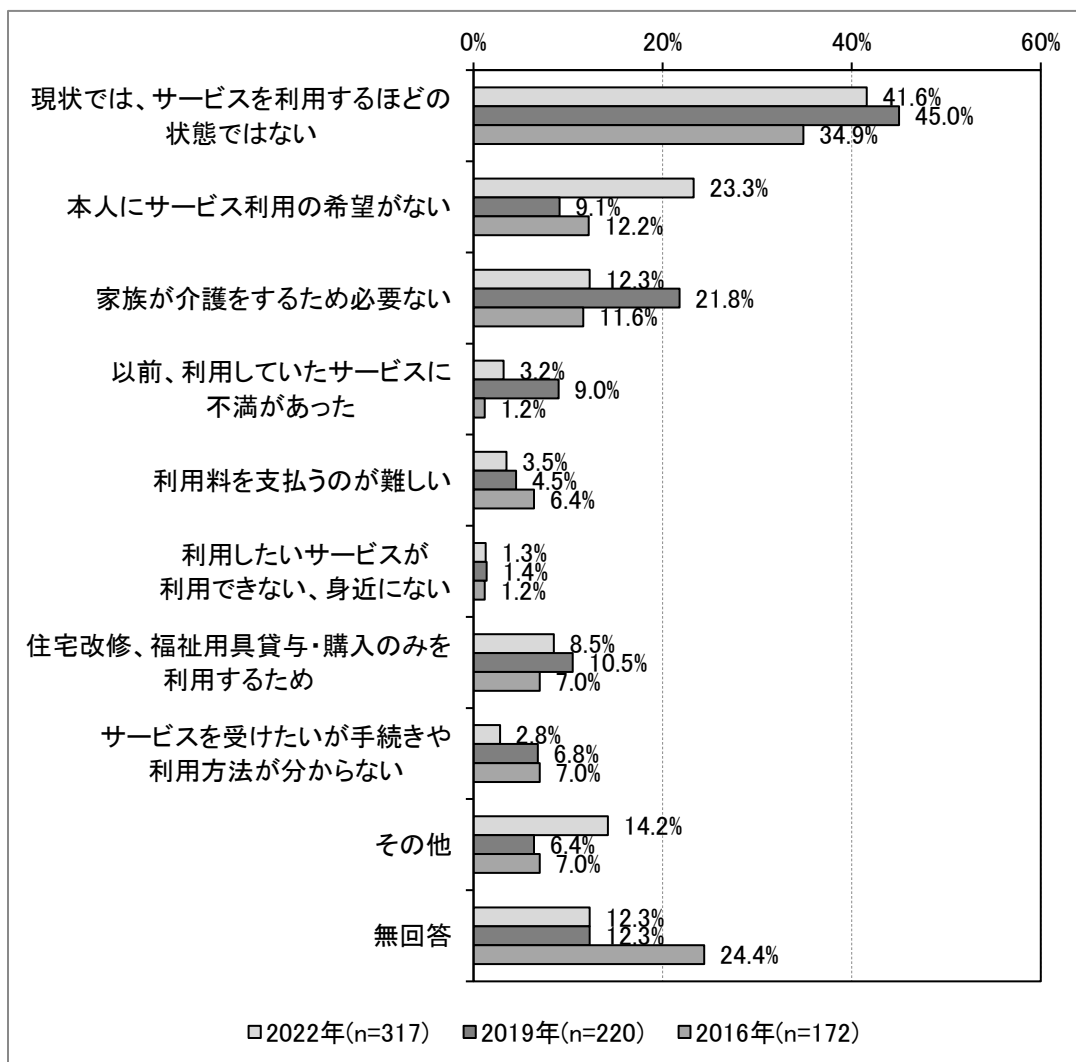
図表 4-4 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(5) 介護保険サービスの未利用の理由

- 「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」の割合が、どの年度においても最も高くなっています。

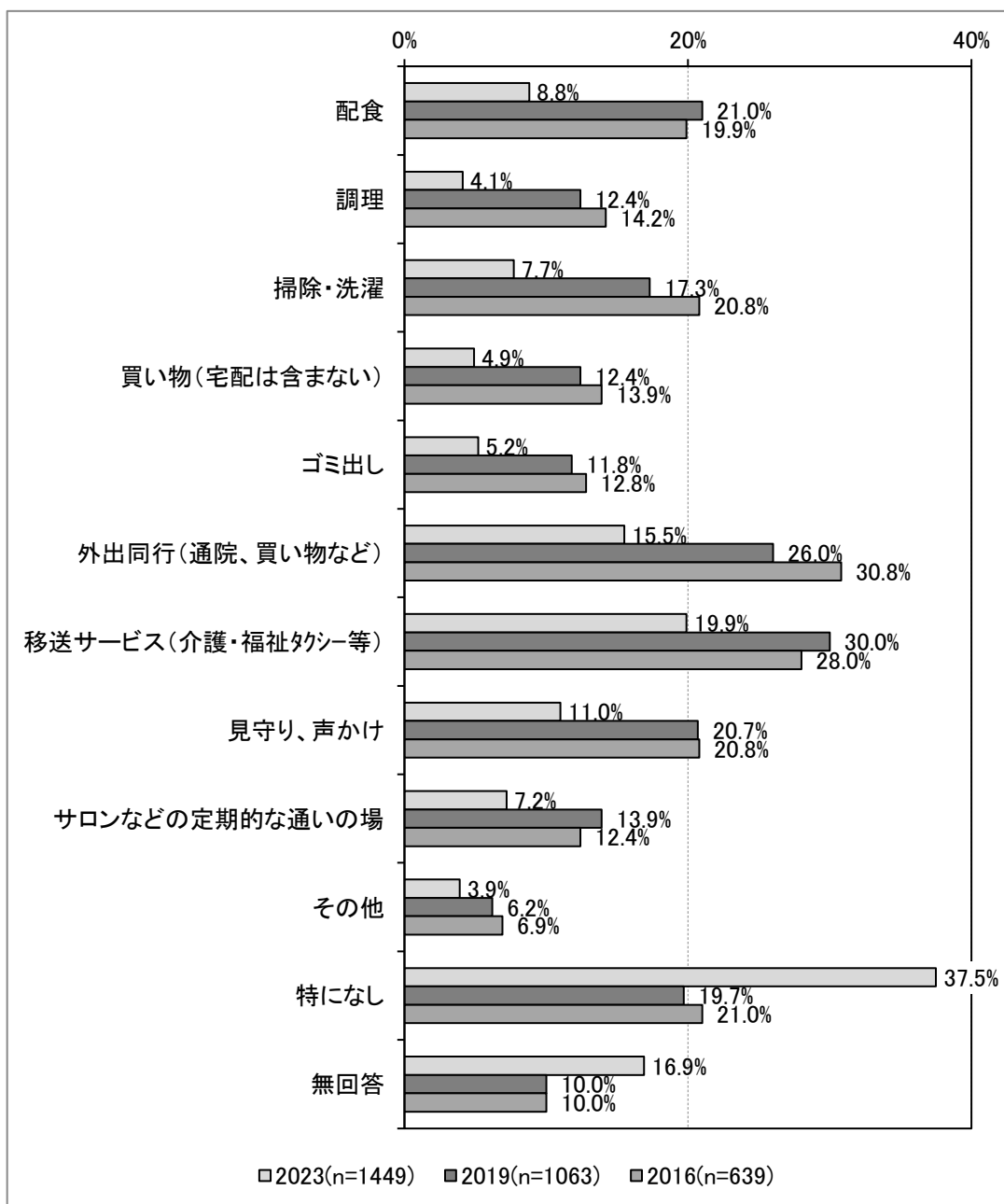
図表 4-5 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



(6) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

- 「特になし」の割合が2022年度は37.5%で、2019年度（19.7%）と比較して17.8ポイント増加しています。
- 「特になし」以外の割合が、2022年度は2019年度・2016年度と比較して減少しています。

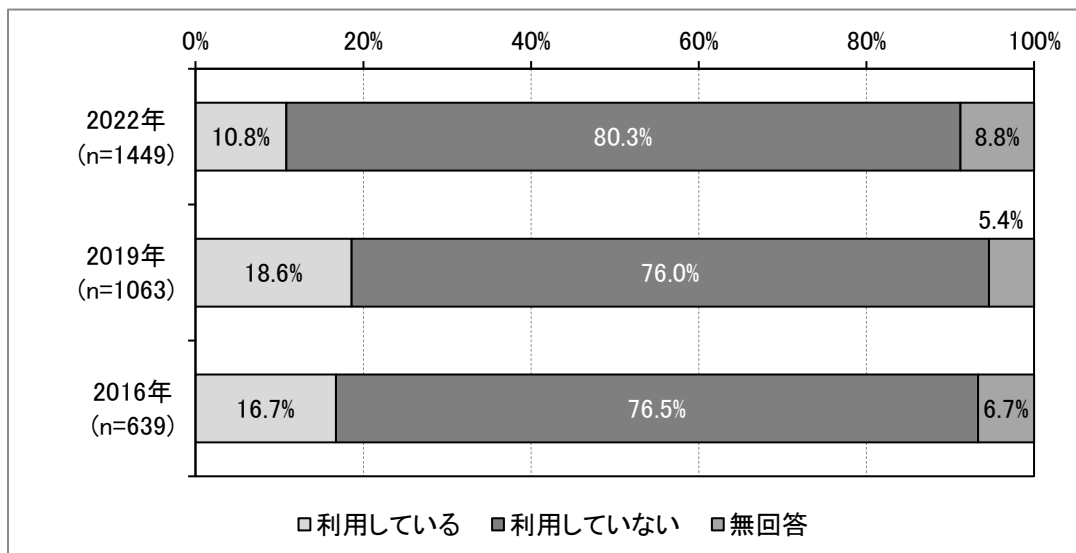
図表 4-6 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



(7) 訪問診療の利用の有無

- 「利用している」の割合が2022年度は減少しており、10.8%となっています。

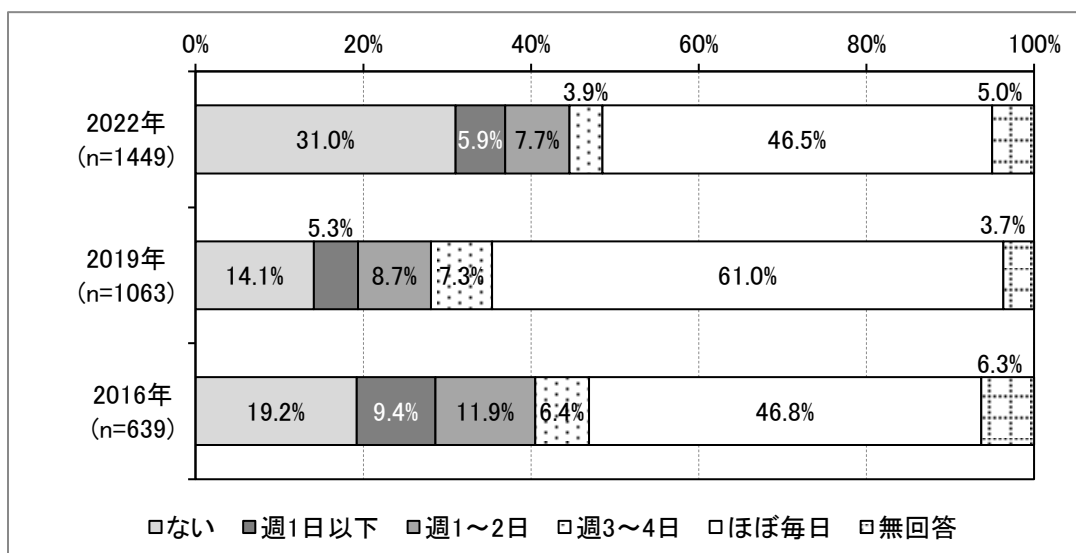
図表 4-8 訪問診療の利用の有無（単数回答）



(8) 家族等による介護の頻度

- 「ない」の割合が2022年度は31.0%で、2019年度（14.1%）と比較して16.9ポイント増加しています。

図表 4-9 家族等による介護の頻度（単数回答）

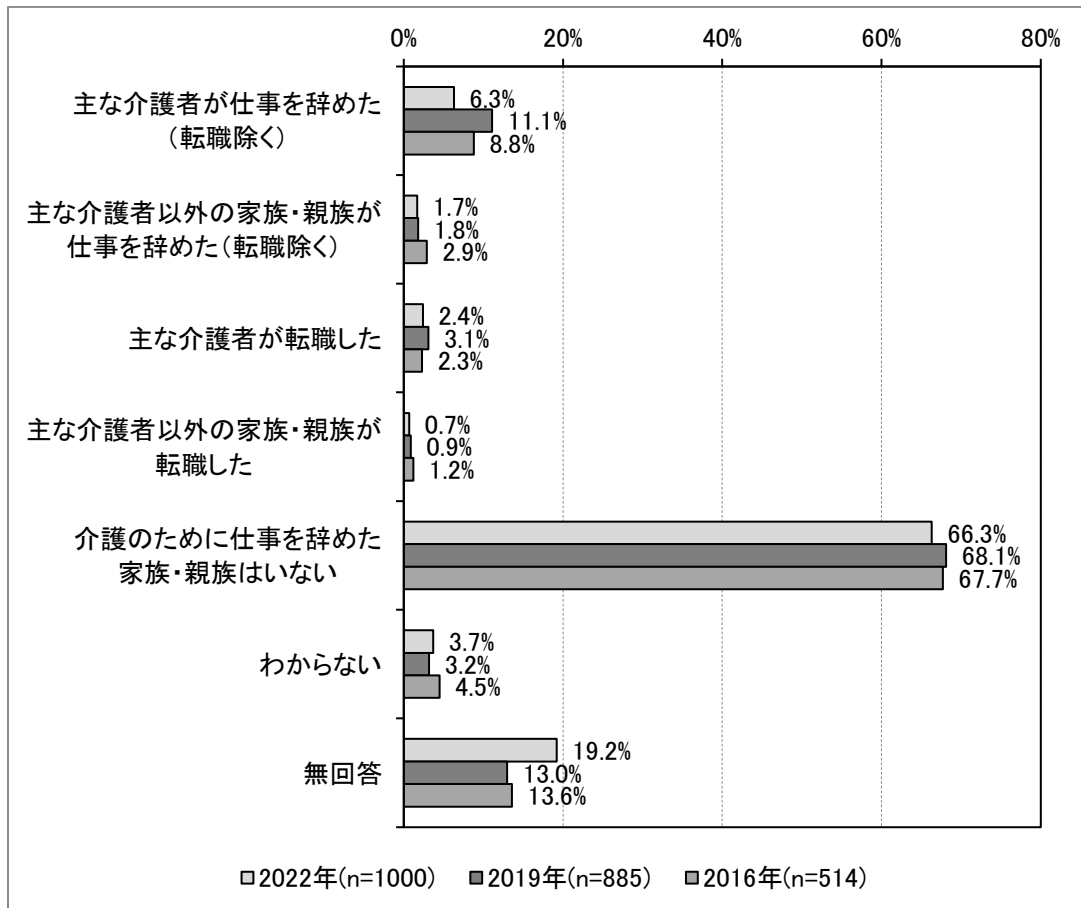


## 2 主な介護者様用の調査項目（B票）

### (1) 介護のための離職の有無

○ 年度別に比較して大きな差はみられません。

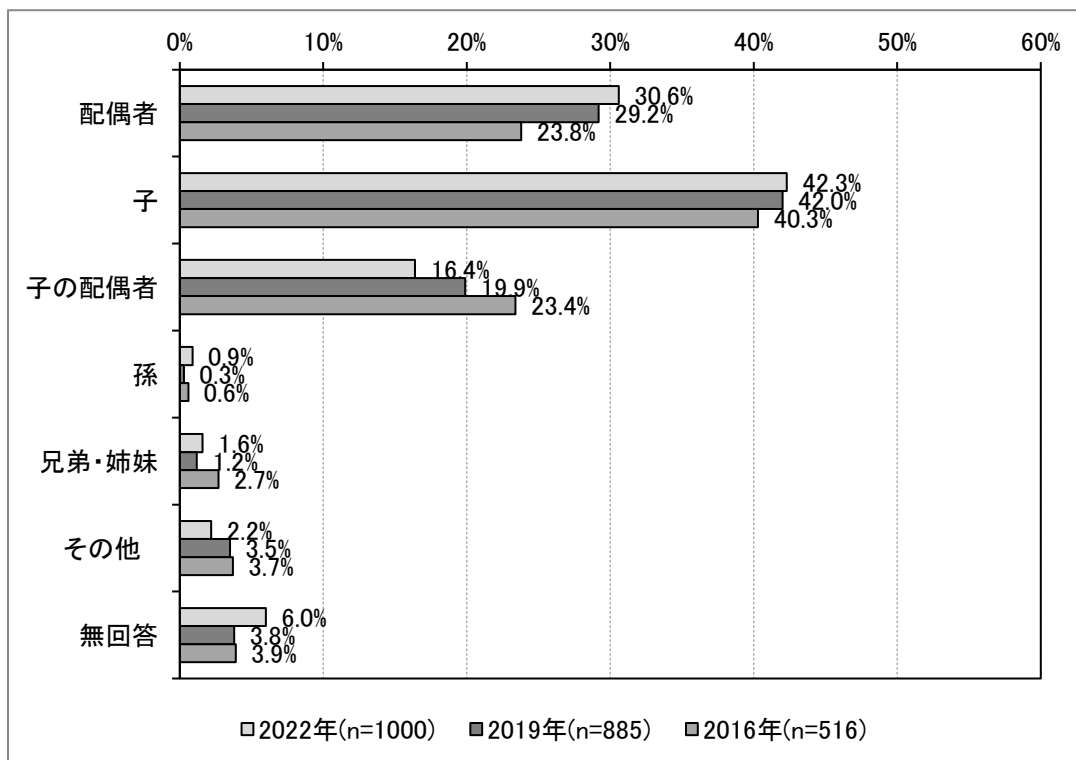
図表 5-1 介護のための離職の有無（複数回答）



(2) 主な介護者の本人との関係

- 「子」の割合が、どの年度においても最も高くなっています。

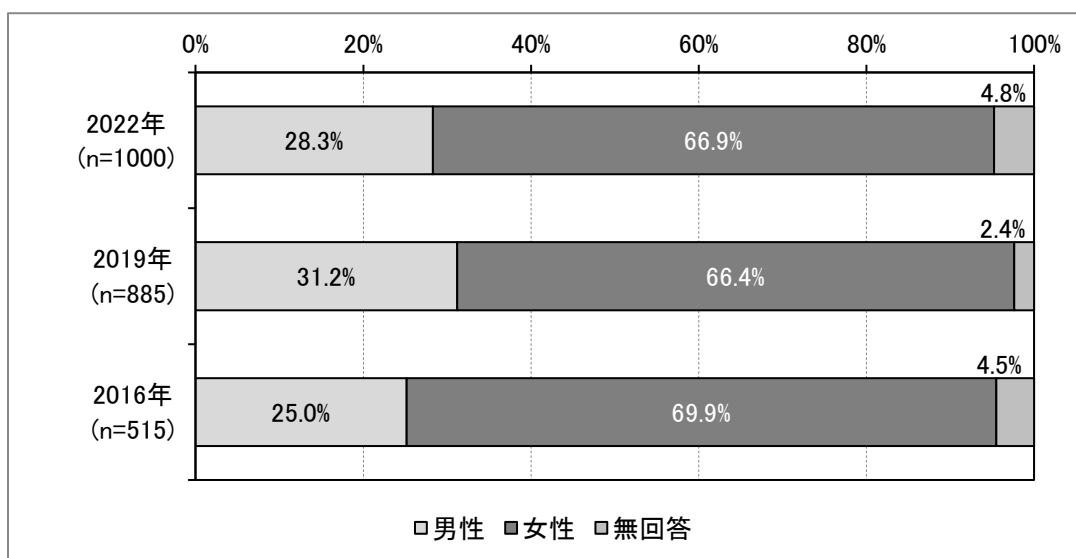
図表 5-2 主な介護者の本人との関係（単数回答）



(3) 主な介護者の性別

- 年度別に比較して大きな差はみられません。

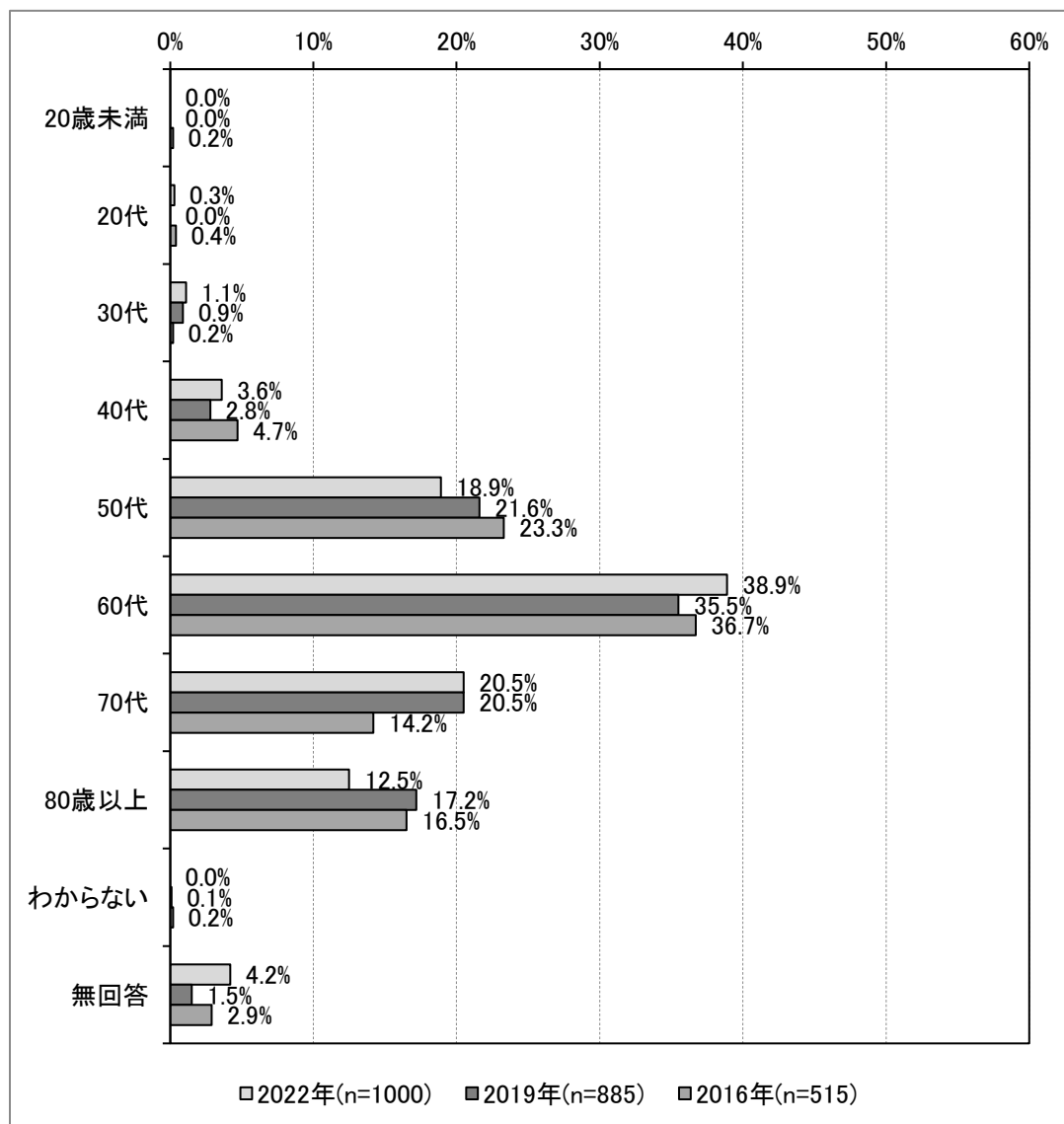
図表 5-3 主な介護者の性別（単数回答）



#### (4) 主な介護者の年齢

○ 年度別に比較して大きな差はみられません。

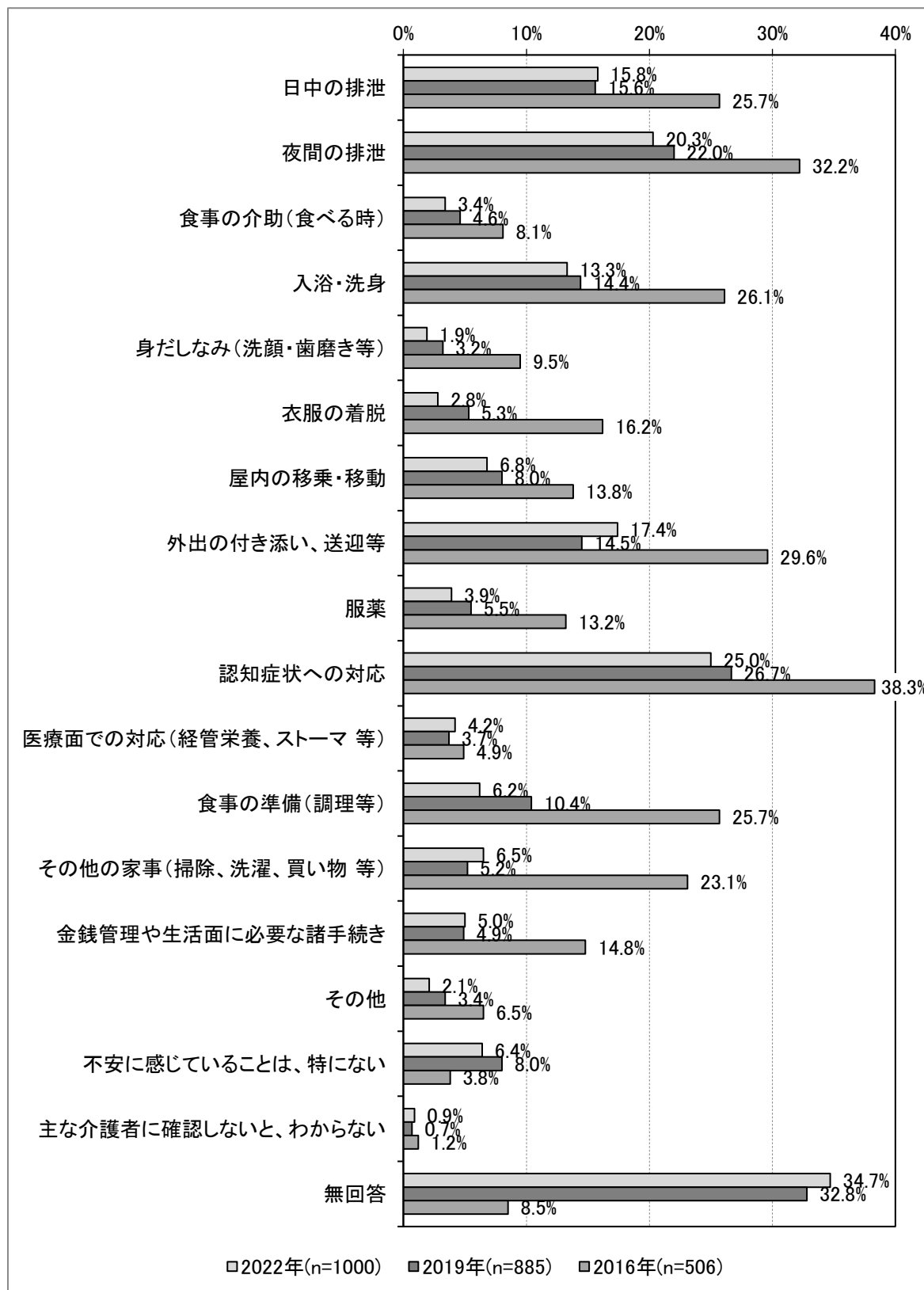
図表 5-4 主な介護者の年齢（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

○ 主な介護者が不安に感じる介護のほとんどが、2016年度と比較して減少しています。

図表 5-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

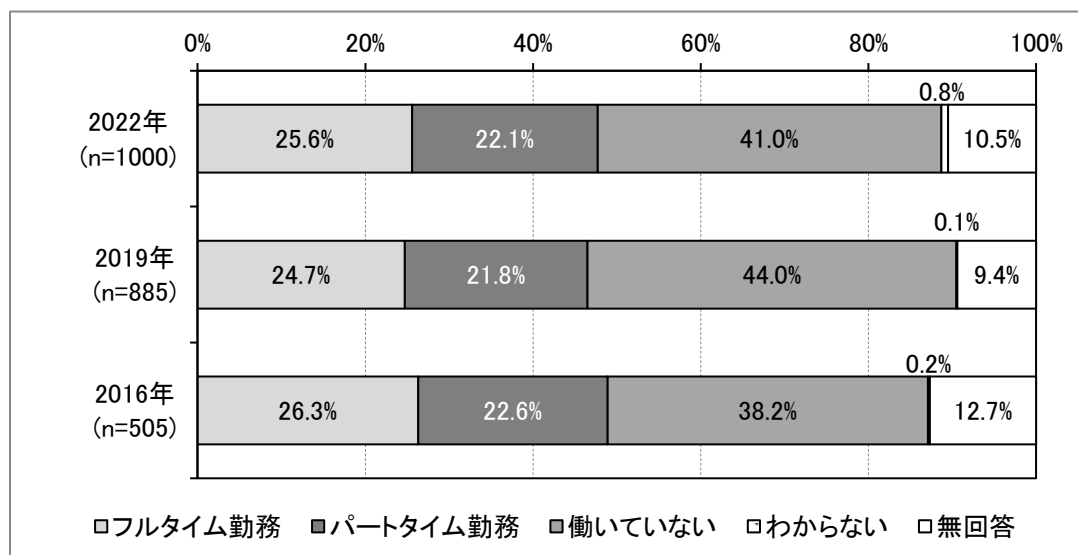




(6) 主な介護者の勤務形態

○ 年度別に比較して大きな差はみられません。

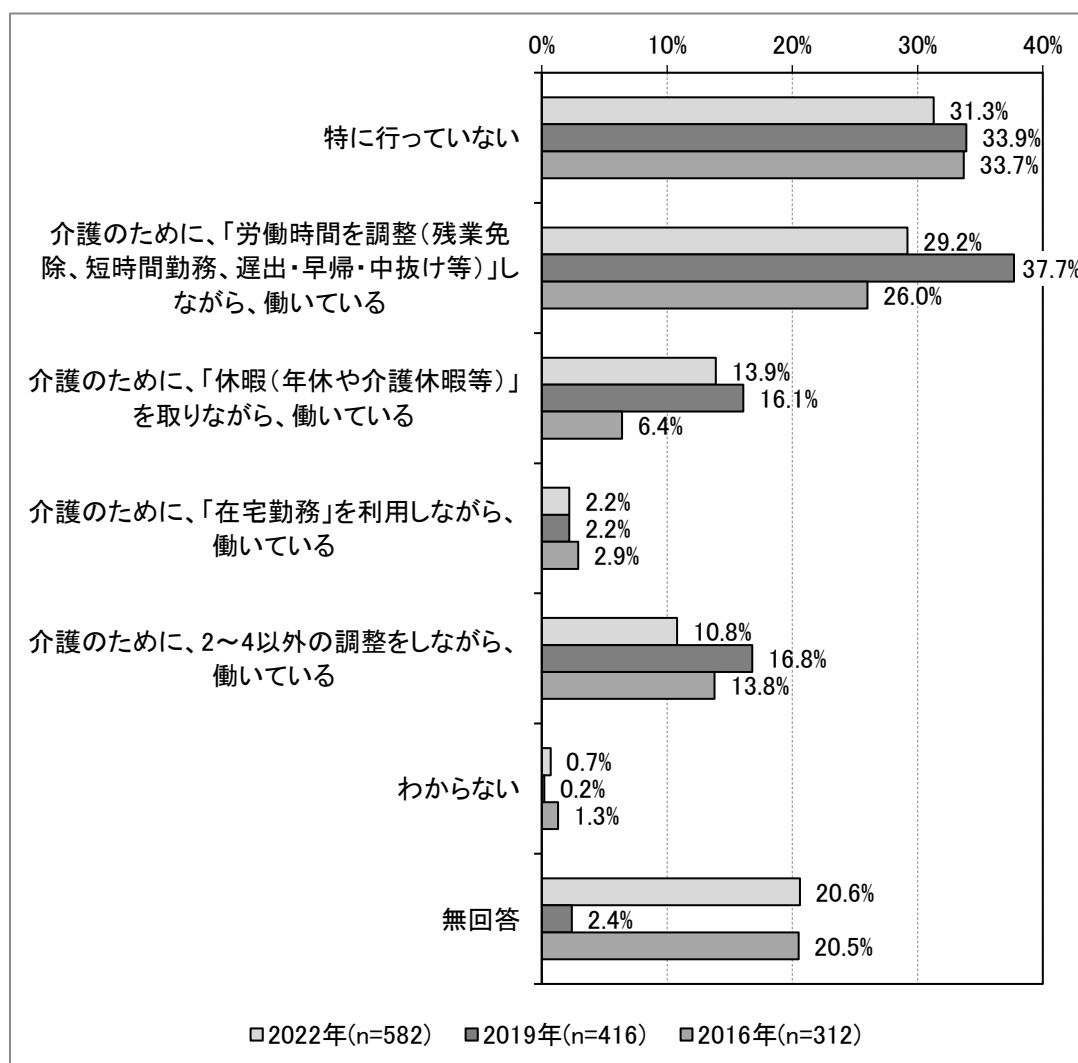
図表 5-6 主な介護者の勤務形態（単数回答）



(7) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

- どの年度においても「特に行っていない」の割合が30%以上を占めています。
- 2019年度は「介護のために「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」の割合が37.7%で最も高くなっています。

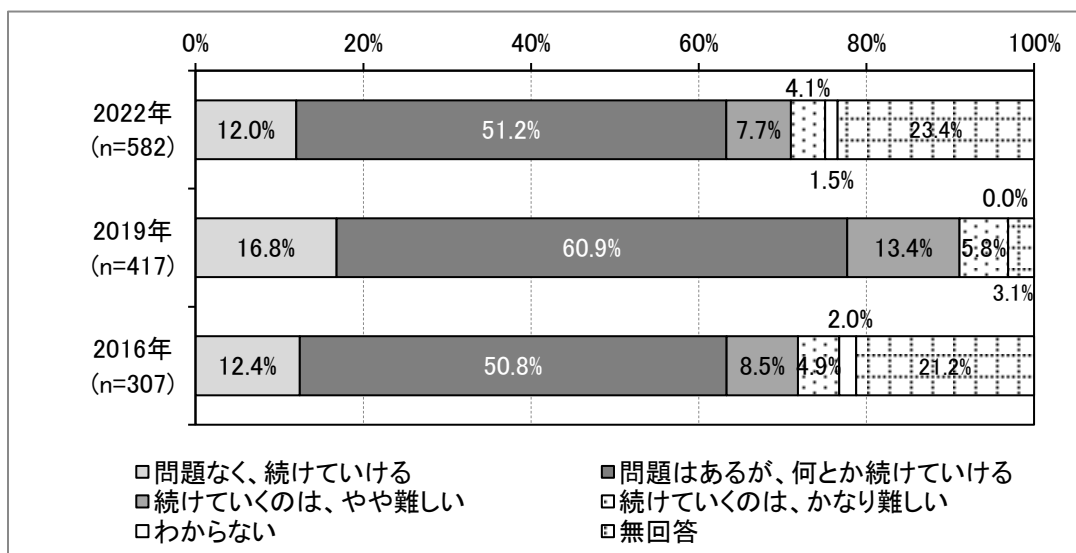
図表 5-7 主な介護者の方の働き方の調整の状況（単数回答）



(8) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

○ 2022年度と2016年度は同様の傾向を示しています。

図表 5-8 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

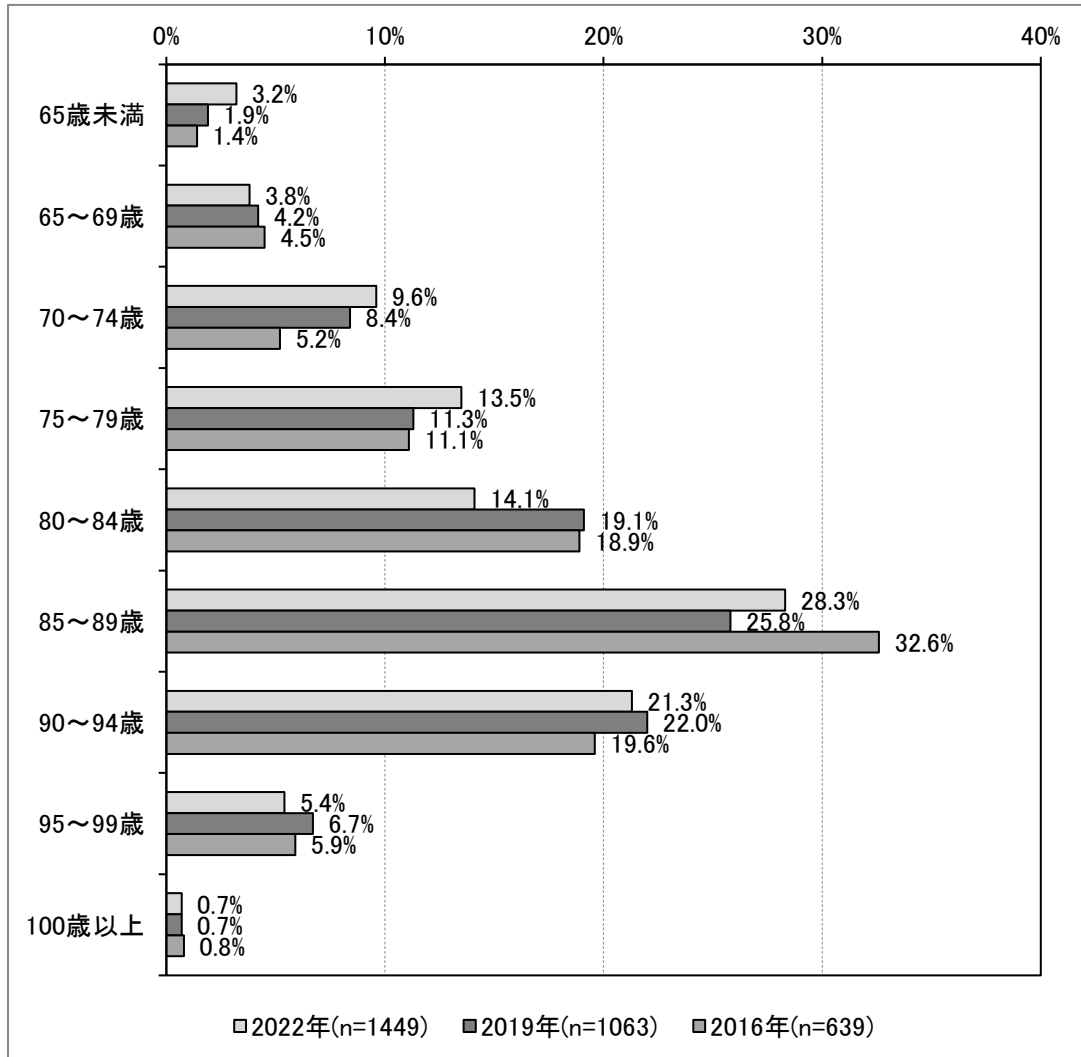


### 3 要介護認定データ

#### (1) 年齢

- どの年度においても「85～89歳」の割合が最も高くなっています。

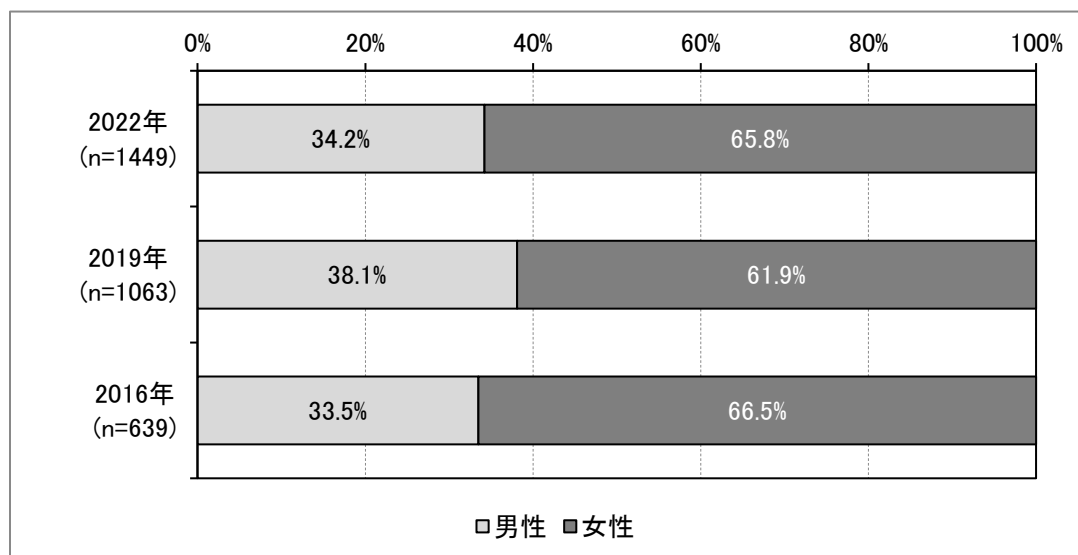
図表 6-1 年齢



(2) 性別

○ 年度別に比較して大きな差はみられません。

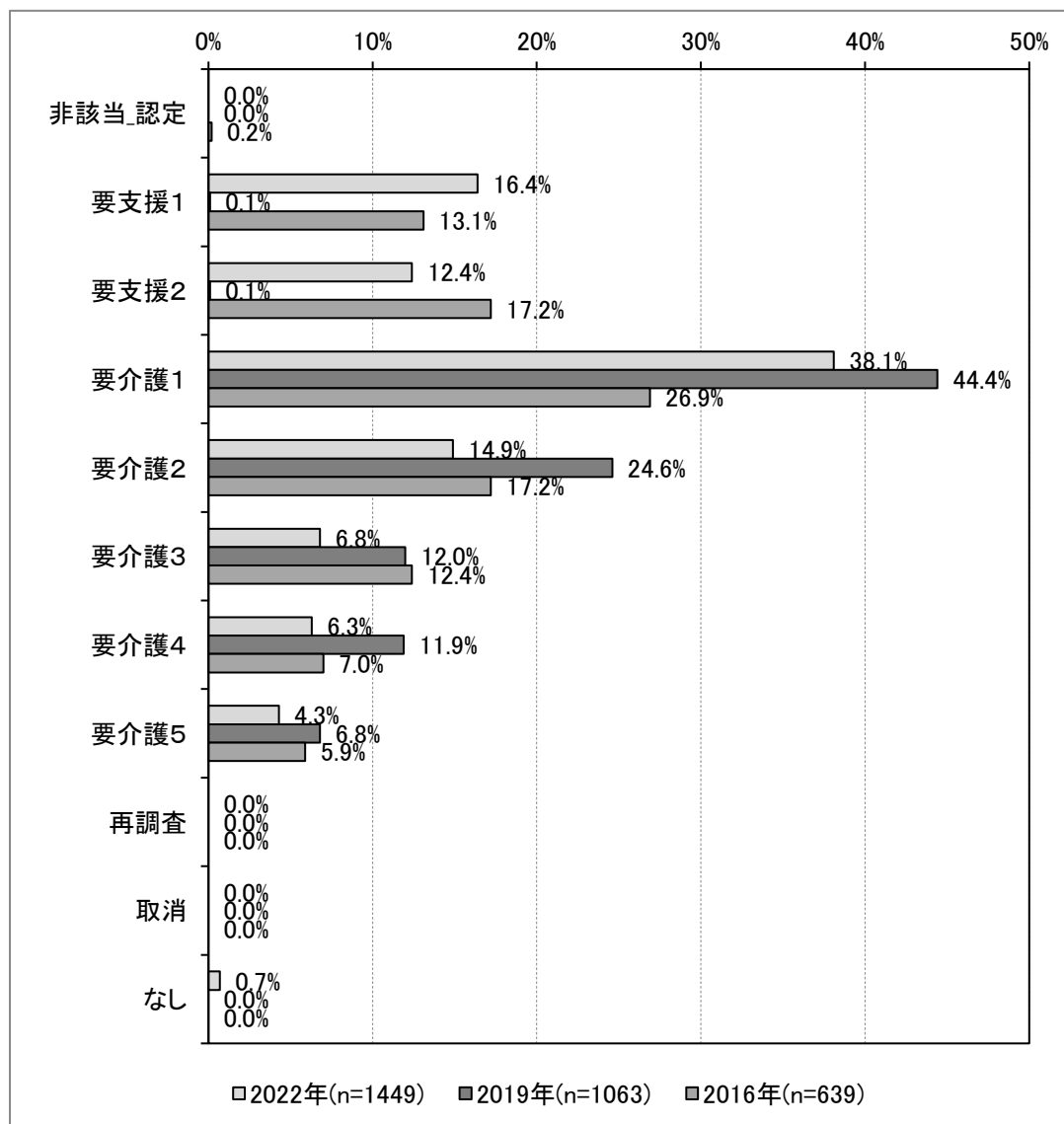
図表 6-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

○ どの年度においても「要介護1」の割合が最も高くなっています。

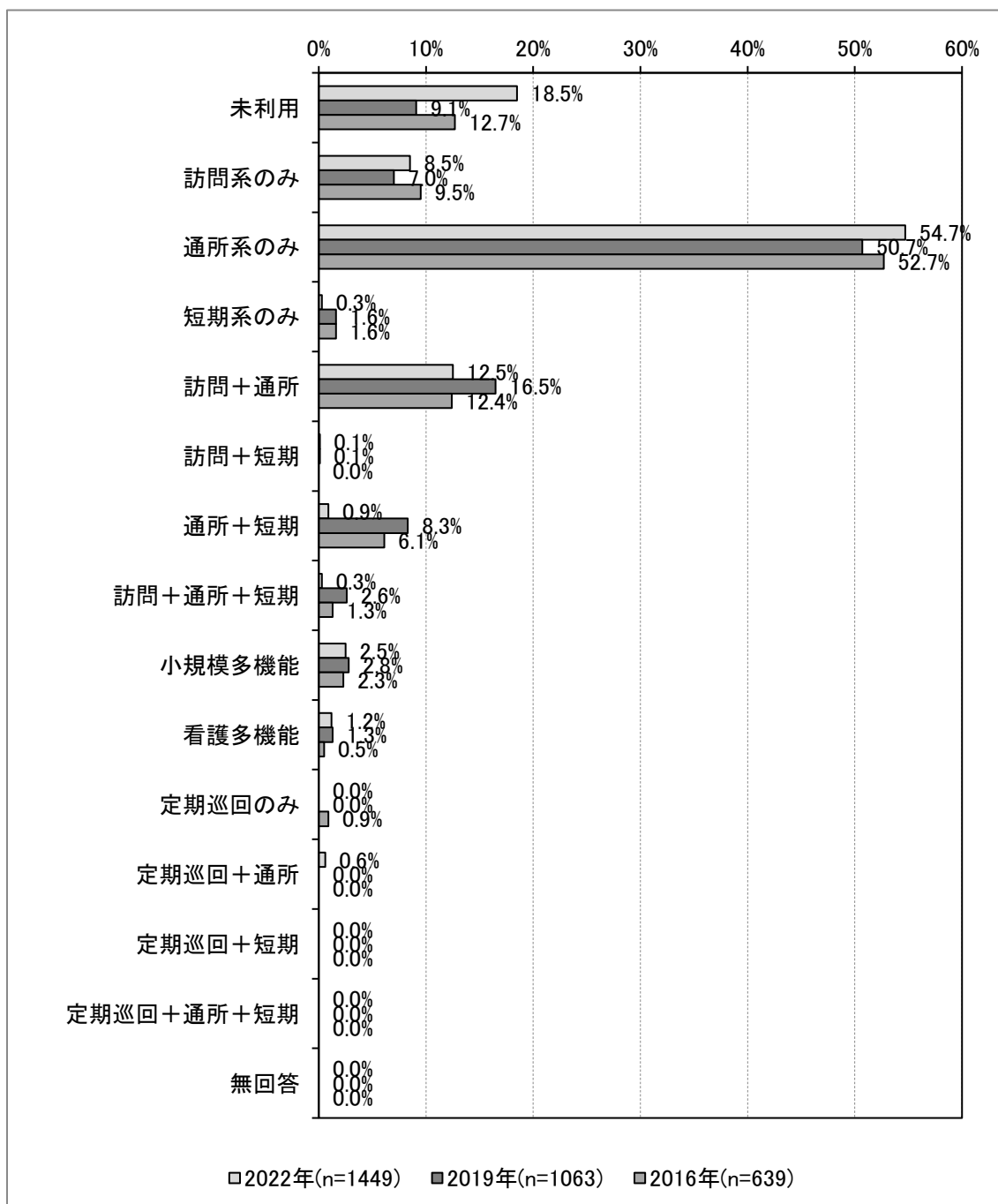
図表 6-3 二次判定結果



#### (4) サービス利用の組み合わせ

- どの年度においても「通所系のみ」の割合が最も高くなっています。
- 「未利用」の割合が2022年度は18.5%で、2019年度（9.1%）と比較して9.4ポイント増加しています。

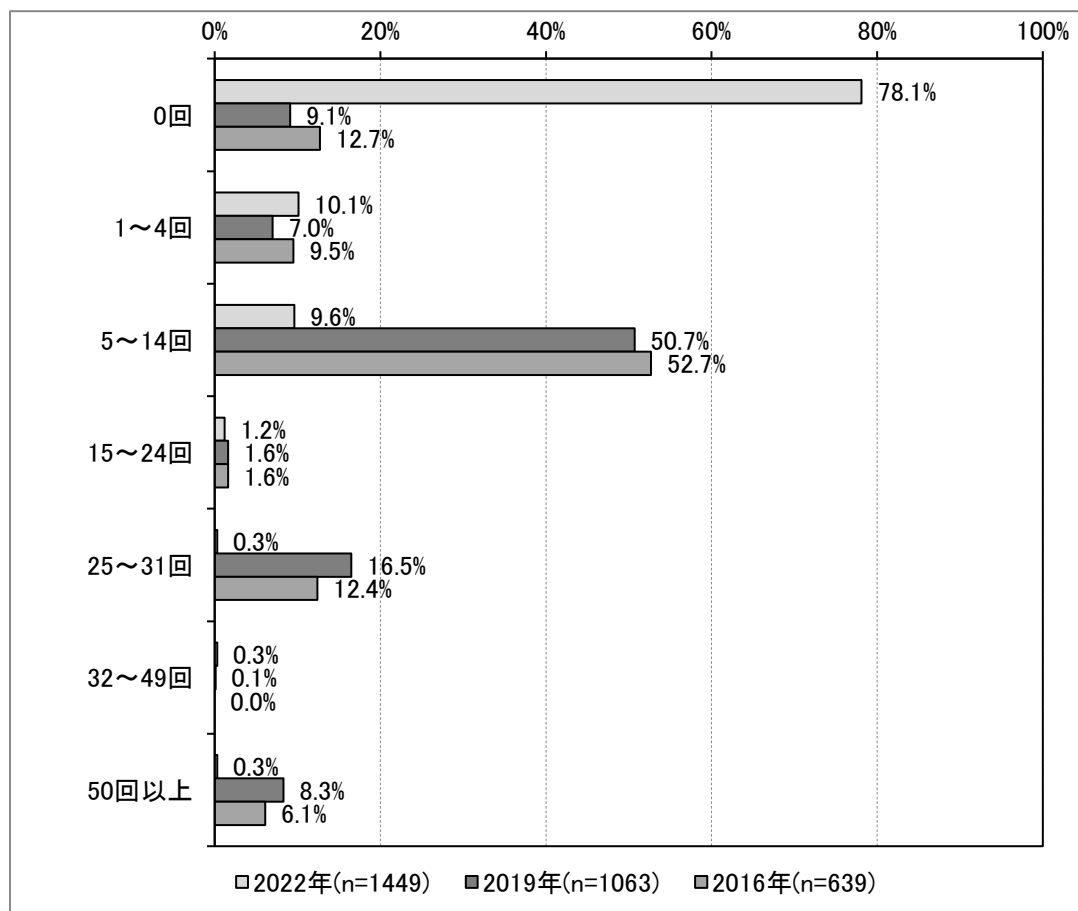
図表 6-4 サービス利用の組み合わせ



### (5) 訪問系サービスの合計利用回数

- 2019年度と2016年度は「5～14回」、2022年度は「0回」の割合が最も高くなっています。
- 「0回」の割合が2022年度は78.1%で、2019年度（9.1%）と比較して69.0ポイント増加しています。

図表 6-5 サービスの利用回数（訪問系）

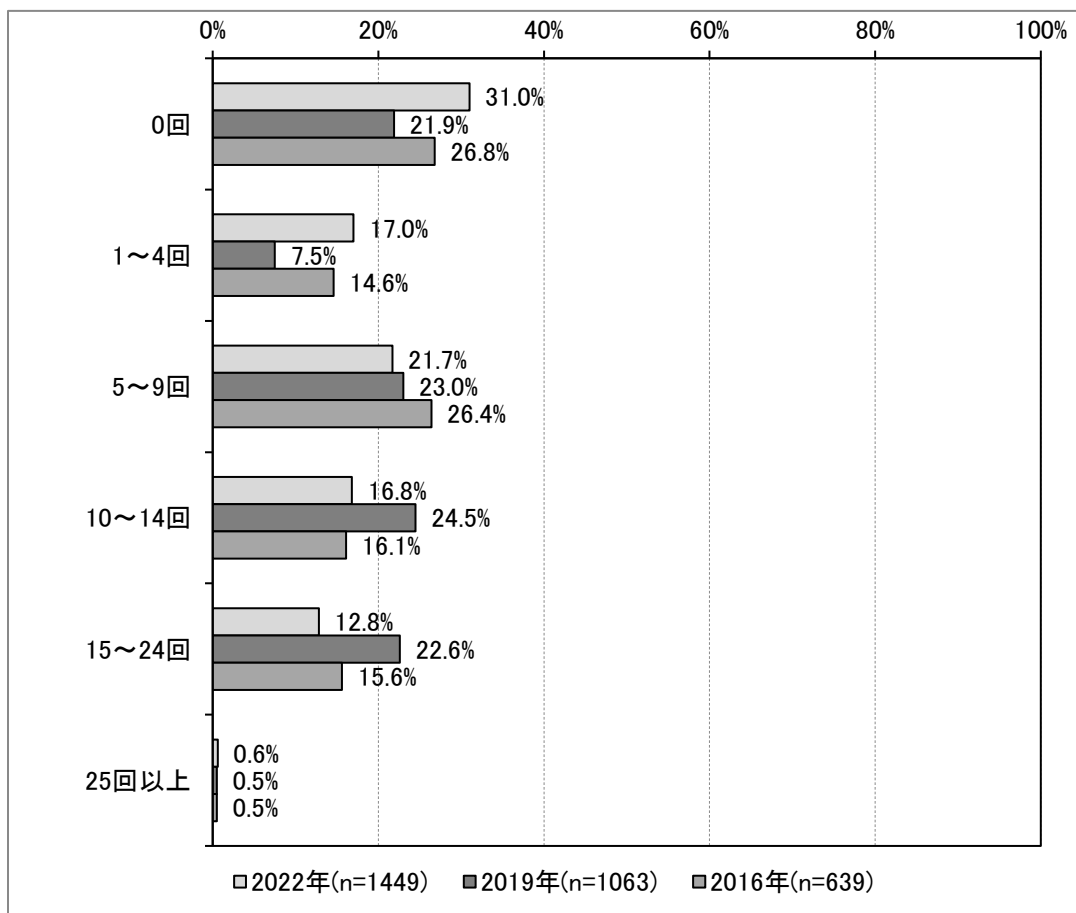




(6) 通所系サービスの合計利用回数

- 「0回」、「1～4回」の割合が、2022年度と2019年度を比較して9ポイント以上増加しています。

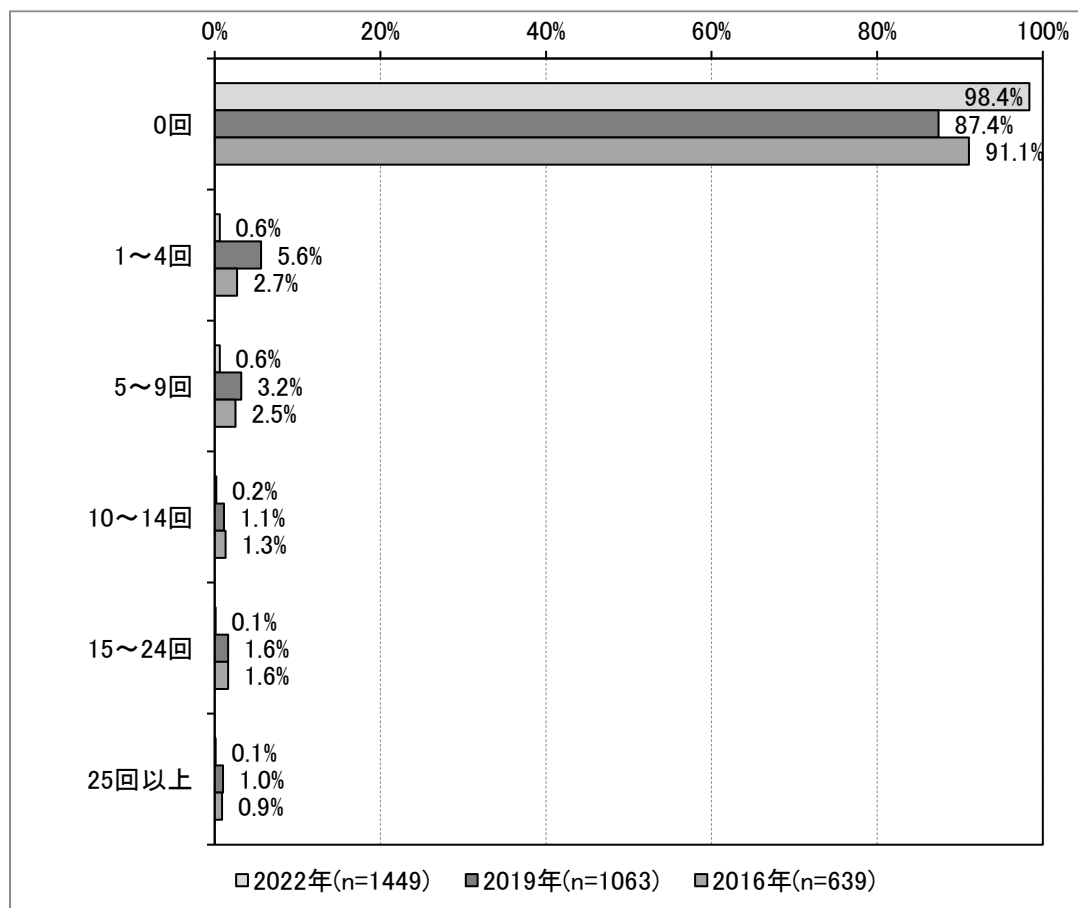
図表 6-6 サービスの利用回数（通所系）



(7) 短期系サービスの合計利用回数

○ 年度別に比較して大きな差はみられません。

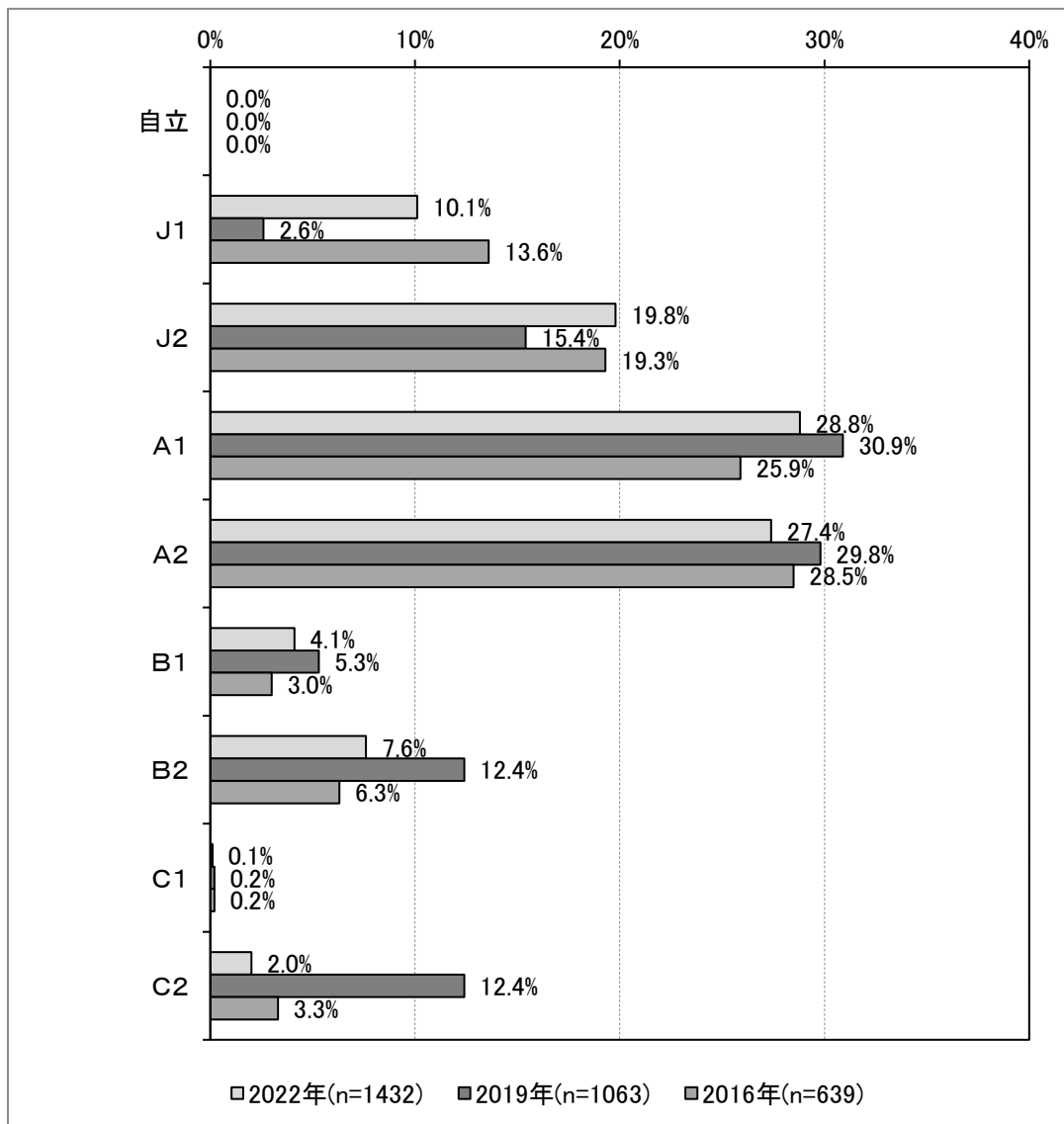
図表 6-7 サービスの利用回数（短期系）



(8) 障害高齢者の日常生活自立度

○ 「A1」、「A2」の割合が、どの年度においても高くなっています。

図表 6-8 障害高齢者の日常生活自立度



### (9) 認知症高齢者の日常生活自立度

- どの年度においても「II b」の割合が最も高くなっています。
- 「II b」の割合が、2022年度は2019年度と比較して10.3ポイント減少しています。
- 「自立」の割合が、2022年度は2019年度と比較して10.9ポイント増加しています。

図表 6-9 認知症高齢者の日常生活自立度

